

10th Anniversary

敦賀市立看護大学
開学10周年記念誌

 敦賀市立看護大学

10th Anniversary

敦賀市立看護大学
開学10周年記念誌



ロゴマーク

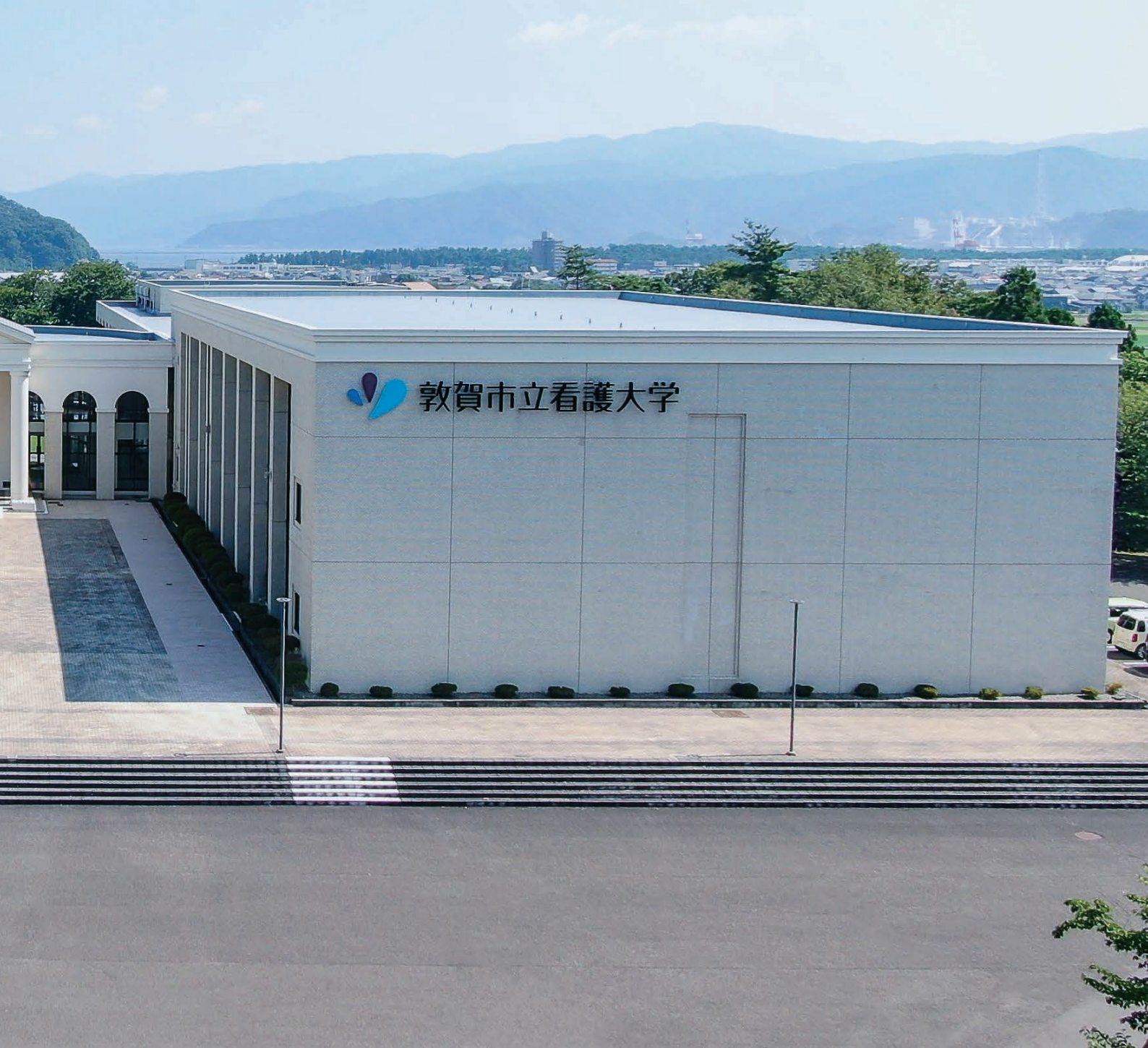
敦賀市の海をイメージするブルーで敦賀の「ツ」を表しています。

雨だれの形は、感嘆符をモチーフに、学問により真理を発見する驚きと、看護ケアの3つの要素である「知識」、「技術」、「こころ」を表しています。



沿革

- 2014年4月 公立大学法人敦賀市立看護大学 設置
敦賀市立看護大学 開学
看護学部看護学科 開設
初代理事長・学長 交野好子 就任
地域・在宅ケア研究センター 開設
附属図書館 開設
保健管理室 開設
- 2017年4月 救急・災害看護研究センター 開設
- 2018年4月 大学院看護学研究科（修士課程）開設
助産学専攻科 開設
- 2022年4月 第二代理事長・学長 内布敦子 就任





目 次

開学10周年に寄せて	5
大学の思い出	11
関係者のことば	21
地域に結びついた研究センター	33
学生のことば	37
これまでのあゆみ	49



開学10周年に
寄せて



開学10年目を迎えて

理事長・学長 内布 敦子



公立大学法人敦賀市立看護大学は平成26年（2014）4月に開学し、令和5年（2023）4月には10年目を迎えました。開学から10年の歴史はどの大学にとっても特別なものといえます。開学の数年前から開設準備がはじまり、多くの人々の期待をうけて開学されたものと思いますので、歴史はたぶん数年前の準備期間からカウントしたほうがよいのかもしれませんが。開学にあたられた関係者の方々、特に初代理事長・学長である交野好子先生には、計り知れないご苦労があったと拝察します。

現在の敦賀市立看護大学を見渡せば、順調に毎年卒業生を送り出し、2020年から3年間続いた新型コロナウイルスの影響を受けながらも、粛々と看護学教育を推し進め、基本理念である「豊かな教養と総合的な判断力、高度な専門的知識と実践力を有する人材の育成」のために誠実に努力を続けています。コロナ禍において国は、病院等の施設において感染拡大が懸念されるために、看護学実習を学内演習などに切り替えることを認め、多くの大学が病院等での実習をあきらめました。しかし、敦賀市立看護大学は、臨床で患者さんに直接出会って看護を自分の頭で考え自分の手で実施する道を選び、感染予防を尽くしてほぼ100%従来通りの実習を実施しました。敦賀市だけでなく広く嶺南地域の病院のご協力、特に現場の看護職をはじめ関係者のご協力と患者さんのご協力で、感染の拡大もなく実習の機会を学生に与えることができたのです。なぜこのようなことができたのか、それは、やはり看護へのこだわりだったと思います。

本学は開学当初から、臨床・臨地現場の看護職と打ち合わせ会や実習指導者会を頻回に開き、学生を現場で患者に出会わせ、自ら看護に気づけるよう努力をしています。このような積み重ねが大学の文化を紡ぎあげます。まだ10年という大学としては短い期間ではありますが、すでに「看護の現場に身を置いて学ぶ」という文化は育まれているのではないかと思います。このような現場重視の教育は、本学卒業生の離職率の低さに現れています。

本学は大学教員の専門性を使った地域貢献にも力を入れてきました。「地域・在宅ケア研究センター」では、地域住民向けの健康講座や看護専門職を対象としてセミナー、研究支援を行っています。2022年度からは地域に出かけていく出張講演も行い、多くの住民の方々にご参加いただいています。もう一つの「救急・災害看護研究センター」では、災害時のケアニーズ調査やシミュレーションを用いた救急救命の訓練や普及活動を行っています。両センターともに敦賀市や嶺南地域の自治体と連携して活動しています。現在、シミュレーション訓練を充実させるために、学内の改装を行っています。臨場感のある訓練とデブリーフィングを行う設備になる予定です。関連する職種の訓練にも使っただけのよう整備中です。

本学は、学生、教職員合わせても300人を超えない組織ですので、お互いが顔の見える位置にいて、意見も自由に言い合いながら仕事をしています。学生も含めてお互いの距離の近さがうまく活かされ、10年間の貴重な歴史を築いてきたと言えるのではないのでしょうか。これからもこの特徴を活かして、発展が続くことを願っています。

『共に手を携え、敦賀のあたらしいステージへ』

敦賀市長 米澤 光治



敦賀市立看護大学が開学から10周年を迎えられたことを、心からお喜び申し上げます。

貴学には、平成26年4月の開学以来、「人々の健康と福祉の向上に貢献できる大学」を目指すことを基本理念に多くの卒業生を地域の医療機関に輩出いただきました。

今日に至るまで、新型コロナウイルス感染症拡大など様々な困難に直面しながらも、この敦賀の地に根付き、大学院及び助産学専攻科を設置し、発展されてきたことは、大学設置の準備段階から、共に歩んできた本市としても大変な榮譽にあずかるものと感じています。

学長をはじめ、教職員の皆様及び関係者の皆様のこれまでの御尽力に、深く敬意を表すとともに、心より感謝を申し上げます。

この10年を振り返りますと、貴学が地域に貢献されてきたことに思いが至ります。

災害看護学を履修されている学生が地域住民と市行政と協力し、看護の視点を取り入れた災害時の避難支援についてフィールドワークと住民との意見交換を行われています。学生消防団の活動は平成30年度に総務大臣表彰を、令和3年度には消防庁長官より消防団等地域活動表彰を受けられました。さらに、地域・在宅ケア研究センターの活動のような地域住民の要望に合わせた健康講座や出張講演の開催、学生によるボランティア活動など、地域社会への幅広い貢献をいただけてきました。

さて、本市では、『敦賀をあたらしいステージへ』を理念として、結婚や子育てへの支援、教育の充実、Uターン支援などをワンセットで捉えた「人口減少対策」、北陸新幹線敦賀開業を活かした「市民が活躍する地域経済の活性化」、スポーツやアートといった文化事業の活性化や高齢者の健康づくり支援、障がい者の生活・自立支援の充実などを通じた「楽しく・安心して住むことができる敦賀の実現」に今後取り組んでまいります。

とりわけ、市民の健康づくりや認知症予防などは、市民福祉のために大事な基盤となるでしょう。

貴学におかれましては、これまでも、地域住民の命と健康を守る、看護師・保健師・助産師の人材育成や地域貢献に御尽力をいただけてきましたが、10周年という節目で歩みを止めることなく、市民からより愛される大学として、更なる発展を続け、本市が次のステージへと歩みを進めていくために必要な、次代の人材の育成に貢献していただくことを期待しています。

結びに、敦賀市立看護大学のますますの御発展と関係者の皆様の御健勝と御活躍を心より祈念いたします。

気の抜けない大学の創設と運営の10年

初代理事長・学長 交野 好子



公立大学法人敦賀市立看護大学は2014年4月1日に看護学部看護学科として開学いたしました。当学開学準備からの10年を振り返ってみたいと思います。

大学開設時には敦賀市に1986年開学の公設民営による敦賀短期大学と1994年開校の敦賀市立看護専門学校との2つの教育機関がありました。この2校により敦賀市における若者の人材育成が行われておりました。しかし、学生の大学志向と、看護の4年制大学の急速な増設による影響を受け、定員割れにより両校とも閉校への道を歩み始めておりました。そうした流れの中で2012年4月に当時の敦賀市長である河瀬氏から「慢性的な看護師不足もあるが、敦賀市から高等教育機関を無くすことは忍びない。何とか高等教育機関を継続させたいので協力を願いたい」というお話をいただき、お引き受けすることと致しました。

敦賀市は高等教育機関である大学を存続させることが第1の目的であると理解いたしました。敦賀短期大学も看護専門学校も閉校となり、敦賀市立看護大学は新たに開学する大学となりました。高等教育機関としての市の期待に沿うには、高い教育内容を有し、高いレベルでの教育を行う大学として存続しなければなりません。

高等教育機関である4年制大学としての教育内容を具現化する前に、看護大学として存続するには、まず、看護師の国家試験の受験資格を得るた

めの97単位の所定科目を準備しなければなりません。大学卒業認定に必要な修得単位数は（敦賀市立看護大学の場合）130単位です。その中の97単位は決して少ない単位数ではありません。そもそも大学の存在意義、および大学の機能は学術の中心として深く真理を探究し専門の学芸を教授研究することを本質とするものである、とされています。看護の大学は資格取得のための教育が重視されがちであるが故に、それを保証するものでなければならぬと考え、設置にあたりました。具体的には広く深い知性を身に付け成熟した大人、すなわち社会人としてより良く生きられる「力」を得ること、そうして得た「力」を将来の看護という仕事の中で活かしていくことができる人材の育成を目指すことであります。それを達成するためにはカリキュラムにおける一般教養科目の位置づけは大きな意味を持つものと考えました。すなわち、広く深い知性は人間の思考の根源となり優れた判断力や倫理観の醸成の基となります。一般教養科目の設定とそれを教授する優秀な教員の確保に努めました。

こうした考え方の基に「豊かな教養と総合的な判断力、高度な専門的知識と実践力を有する人材を育成するとともに、看護の発展に貢献できる質の高い研究に取り組むことにより、人々の健康と福祉の向上に貢献する」という基本理念が出来上がりました。

第1期生から私が入試に関わった9年間について振り返ってみましょう。入学した学生数は505人、卒業生数は314人です。最初の3年間は卒業生がおりません。新設された大学は残念ながら学風も大学の文化も何もありません。地道に作り上げていくところから始まります。そうした意味で第1期生や2期生らは学生自ら大学づくりに積極的に取り組んでくださいました。言葉で言い表せないほどの感謝をしております。特にボランティア活動や住民への健康支援、消防団活動の後方支援等、地域に出て住民や小・中学生と触れ合って顔の見える形での活動は、大学をご理解いただくうえで大きな力となりました。

また、私が目指した豊かな教養・知性を学ぶ学生の姿勢も素晴らしいものがありました。「一般教養の単位は充足しているけど、どうしてもこの科目を聞きたいので授業に参加してもよいですか」との申し出もありました。こうした学生の前向きな態度に私は心や気持ちを動かされ、学生の学びたい姿勢に呼応した大学を作り上げねばならないと心に誓い、無我夢中で大学運営を行ってまいりました。私自身も数科目を担当し、教室において学生と触れ合い、学生と交わした会話は楽しい思い出となりました。

次にこの9年間、大学の運営においてレベルを維持し、発展させていかなければならない私の使命と責任の重さについて触れてみたいと思います。その背景には大学設置準備中に敦賀短期大学の終焉がありました。私自身は大きなショックを受けました。閉校の原因は明らかにされていませんが、事実として把握できましたことは学生の定員割れでした。閉校していく校舎で同時期に大学の設置準備をしている何とも言えない気持ちでした。身近な短期大学の閉校から私なりに学び、気持ちを新たに致しました事は、交通の便もあまり良いとは言えない地方で、学生数の少ない小規模な単科の大学を運営し、かつレベルを保ち、発展させていくにはどうすれば良いかということでした。一つには、大学は全国に900校程度ありますが、他の大学が行っていることを真似るのではな

く、この地にあった特色のある大学にすること。2つ目はどんなことがあってもこの大学を選んで受験してくださる高校生を多くすることです。大学の特色を見て多くの高校生に選んでもらえる大学ならば必ずや、レベルの高い学生が確保でき、大学の評価は必然的に上がっていくと考えたからです。

この9年間の志願倍率は単純に計算して平均8.70倍、受験倍率5.72倍でした。この数値を維持するためには他の大学の1.5倍の努力が必要と考え、以下のような活動を続けてまいりました。

その努力の一つとしては、福井県内はもちろん近隣の高校へは私自身が出向きました。毎年高校に寄せていただき進路指導の先生と顔なじみになりますと、高校における看護系大学への生徒指導の方針や傾向、合格者が辞退された理由等もお話し頂け、大変有効な情報収集の機会となりました。こちらからは、高校から入学された学生の大学における活動やアルバイトの状況、海外の語学留学への参加等をお伝えすることによって、先生方も関心をもって聞いてくださってまいりました。

また、入試対策につきましても率直な質問をお受けすることも多くありました。大学が出題する小論文では、「この小論文からどのような能力を見られるのですか」、「看護については入学前にもどの程度の知識を持っていたら良いのですか」等について聞かれることも多くありました。「看護という仕事を将来してみたいという希望は持っていただくことは勉学のモチベーションを高める上で大事ですが、看護の知識は入学後にしっかりと学んでいただきますので、入学前には特に必要はありません」とお話をさせていただいてまいりました。進路指導の先生方の関心である大学出題の作問にも一定のレベルを保つための努力を要しました。私も責任上9年間携わりましたが、これに力を注いでくださった教員には感謝いたします。

敦賀市民で大学に関心のある方は、大学が設置されたことを本当に良かったと言ってくださいます。中心になって大学を設置した私はどうかと申しますと、学生に責任ある教育の質を保証する

ための努力と苦労は前述いたしましたように、並々ならぬものがあり、ただ良かったと言い切れないものも秘めておりました。

良かったのか否かが言い切れない理由には、大学はいつもリスクを抱えていることがあります。

大学のレベルや評価が下がりますと、受験生は減少するでしょう。受験生が減少しますと入学者のレベルが落ち大学の評価も下がります。また、一端定員割れに近い状況に陥りますと、大学のレベルは一挙に下がっていきます。経営的にも困難になります。

最初の問いである大学を敦賀に開設して良かったか否かは、これから先、大学が健全な姿で存続、発展してはじめて、良かったという結果になるのではないのでしょうか。

最後になりますが、次は教職員確保についてです。敦賀市立看護大学が認可された2014年には全国で看護系の大学、学部等の設置は14校と大変多い年でした。看護系の大学はわが国では1989年に11校であったものが2022年には303校と33年で約27倍以上と大幅に増加しています。これだけ急速に増加する大学において最も困難を極めるのは教員の確保であります。教員の養成が追い付かない速さで大学の設置が行われています。教員を得ても、近県で大学が設置されますと優秀な教員から引き抜かれて行ってしまいます。大学設置準備から10年以上、私の頭から教員確保の4文字が一日として一時間として消えたことはありませんでした。また、教員確保には北海道から中国地方まで日本全国何処へでも出かけ続けました。優秀な教員を確保することは教育のレベルを維持するうえで最も重要な条件であるからです。しかし、人事は難しく、人の能力や人柄、教育に対する熱意、教育技術等を判断する力がない自分を反省することも数多くありました。

新しい大学は様々な設置体や大学の規模、教育理念の異なる大学で教育に当たっていた教員が集まって組織が作られます。当時の大学での議論は「前の大学では…してきた」「私は…してきた」から始まりました。本来なら敦賀市立看護大学の

教育で何を指すための議論なのか、それを指すための方法として何が最も妥当なのかと言った目的や地域性、大学の特性を踏まえた方法論の議論がなされなければなりません。その点が最も困難な事案だったように思えます。改革や変更は大事ですが、その後の成果や効果が期待されるものでなくてはならないからです。この大学だからこそ、こういう方法が学生にとって妥当である、また、大学の発展にとって良いという柔軟な考え方が大学の特性や個性に通じるのではないかと思います。

大学職員については、新しい大学では事務職員の経験者がいないに等しい状況からの出発でした。優秀な市職員だからと言って大学事務に必ずしも適しているとは言えないことがあります。大学は一定の自主性・自律性が承認されていることが基本的な特質とされているからです。大学という体制の特色、および大学の目的や機能を勉強し、それを理解し、踏まえて大学組織の中で活動できれば優れた尊敬される事務担当者になれるのだと思います。9年の歴史を経て、大学事務プロパーとして高い認識をもって活動されている事務職員も現れ、今後の活躍が期待されるところです。

様々な方面から10年を振り返りましたが、書き尽くせないものがまだまだあります。敦賀市立看護大学が健全に存続し、発展していくためにお役に立てればとの思いから記しました。次の10年間の素晴らしい発展を祈願いたします



初代理事長・学長 交野先生作成のマスコット
凜 (Rin)・海凜 (Karin)・敦看 (Tsurumi)

大学の思い出

敦賀市立看護大学創立10周年を迎えて

—10年間の歩みを振り返る—

教授・学部長 北村 隆子

本学は2014年4月に開学し、今年で創立10周年を迎えました。この10年間の様々な出来事が、走馬灯のように思い出されます。

1. 開学までの時期

2012年秋に当時の文部科学大臣が大学設置審議会の抜本的な見直しをするとの会見から、すでに設置準備が始まっている本学の行く末に不安を感じました。しかし、初代学長の交野好子先生から直接ご連絡をいただき、その不安も解消されました。

その後、敦賀市役所に隣接する消防本部の会議室に何度か着任予定の教員たちが集まり、それぞれの立場から熱い議論をしました。その当時、多くの看護学部で保健師教育課程を選択した学生は、卒業単位が上乗せされているのが当たり前でしたから、本学が保健師教育課程を応用看護として位置づけ、卒業単位をそろえたカリキュラム構成は画期的なものでした。今でも応用看護の3分野は全国で唯一本学だけであり、本学の誇りです。

2. 開学からの4年間

大学の校地・校舎は、敦賀短期大学廃止の後を活用したものでした。そのため、開学当初は授業と並行しながら校地や校舎内の整備に着手していきました。現在の中庭は、グリーン一面の芝生で覆われています。これは1期生の学生57名と教職員全員で、授業終了後に行った芝生植の成果です。

最初の2年間は、敦賀市内に設置されていた敦賀市立看護専門学校の学生・教職員の皆様との同居生活でした。それぞれの学校の設置の趣旨は違いますが、同じ看護の道を目指す学生や教員の間には乖離があってはいけないと考え、歓迎会や学校祭などの行事を協賛で開催し両校の交流を図ってきました。

また、交野先生の「大学は人と人とのつながりで成り立つもの、だから学生を大切に下さい」という言葉を肝に銘じ、常に学生や教職員の意見を参考にしながら、教室や実習室の改修、OA機器の整備など、現在の学修・研究環境が整いました。

3. 新型コロナウイルス感染症による影響

世界的な新型コロナウイルス感染症の流行は、この10年の中で一番大きな出来事だったのではないのでしょうか。2020年4月からの3年間は、新型コロナウイルス感染症流行により、授業や実習に大きな影響が出ました。大学の主な実習施設であった市立敦賀病院での実習受け入れが中止となったことにより、学生たちに如何にリアルな看護を学ばせるかが課題でした。やはり臨地でのリアルな場所・人・ものは何物にも代えがたいとの思いから、今まで関係のなかった施設に交野先生と実習受け入れのお願いをして回りました。病院の方もコロナウイルス感染者の受け入れで大変な中、後輩を育てるためにと快く実習を受け入れてくださいました。多くの大学では臨地実習ができず、シミュレーションや模擬患者等で代替を行っている中、本学が嶺南地域の医療施設で臨地実習を継続できたことは、本学の教育理念や学生の良さを広く知っていただける機会になったと思います。

コロナウイルス感染症による教育・研究活動への影響は只ならぬものがありましたが、一方で新たな実習施設の開拓による人と人との輪が広がったことは、教育のみならず研究活動に繋がっていききました。まさしく「災い転じて福となす」です。

本学は、総学生数300人足らずの小さな大学ですが、小さいからこそ設立当初から大切にしてきた学生と教職員、さらに地域の人々との融合により、地域に根差した大学として成長してきたのだと思います。その強みを見失うことなく、ロゴマークに込められた意味をかみしめ、さらなる発展を遂げていくことを祈ります。

大学の思い出 ―授業に込めた2つの願い―

名誉教授 大下 邦幸

(公立大学法人 敦賀市立看護大学 理事)

敦賀市立看護大学の開設にあたり、私が担当することになった授業科目は、「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」、それに「国際理解入門」であった。これらの科目を担当するにあたり、心に期すところが二つあった。ひとつは、臆せずに英語でコミュニケーションをしようとする力を学生たちに身に付けてもらうこと、もう一つはGlobal Citizen mind (地球市民としての意識) を身に付けてもらうことであった。

最近の国際情勢は必ずしも芳しいものではないが、現代に生きる我々は、好むと好まざるとにかかわらず、国際社会の中で生きていかざるをえない。そのような状況の中であって、学生たちに是非身に付けてほしいと考えたのが上記の2つである。

学生たちは、すでに英語を長年学習している。英語のコミュニケーション能力はついているはずであるが、必ずしもそうではなかった。そこで、授業ではコミュニケーションの機会をできるだけ増やすことにした。1年生の英語の授業は28人の少人数クラスとし、週2回行う。2回のうちの1回は英語の母語話者に担当してもらい、私の授業も含めて、原則として英語で行う。さらに、英語でのスピーチやプレゼンテーション、エッセイライティングを授業に取り入れ、できるだけ多く英語を使ってもらうことにした。英語でのコミュニケーションを数多く体験しておけば、例えば将来病院で、英語でコミュニケーションを行う必然性が生じた時、臆することなく立ち向かえるようになる、いや立ち向かって欲しいと考えたからである。

もう一つは、Global Citizen mindの涵養である。我々は宇宙船地球号の乗員である。そしてこの地球は、人権・人種問題、気候変動、環境問題、資源問題、戦争と平和など、種々の深刻な問題に直面している。授業では、こうした問題をできるだけ多く取り上げ、Global Citizenとして、種々の問題をどのように積極的且つ建設的に解決したらよいかを考えてもらった。

幸い、こうした2つの願いは、毎年、1年修了時に学習の成果として刊行しているエッセイ集 *Sycamore Synergies*、2年修了時に刊行している *TNU Project Work* に結実したように思える。エッセイでは、学生たちはみずみずしい感性で、自分なりに考えた意見や考えを流暢な英語で綴っているし、プロジェクトワークでは、鋭い感性や高い問題意識、それに分析的で創造的な思考が論理的な英語で綴られている。*TNU Project Work* の表紙絵にはFour-leaf Clover (四つ葉のクローバ) が描かれている。それはGlobal Citizenに必須の能力であるCuriosity、Challenge、Cooperation、Creativityの4つのCが、プロジェクトワークにまさに具現されていることを示している。学生たちは、実によく努力してくれたのである。

最後に、海外研修についても触れておきたい。夏休みを利用して実施した、カナダのオカナガン大学での研修もGlobal Citizen mindの涵養に大いに貢献したのではないかと考える。英語の学習のみならず、医療施設の見学やホームステイ、そして何よりも日本とは異なった文化や価値観を持つ人々との出会いから、参加した学生たちは多くのことを学び、視野を広げてくれたようである。

敦賀市立看護大学が開学して、はや10年経つという。開学時から6年間在籍した者としては実に感慨深いものがある。大学の益々の発展を心よりお祈りする。

教官と教員の違いに学ぶ

名誉教授 杉浦 良啓

在学生、職員の皆様、創立10周年おめでとうございます。敦賀市立看護大学10周年を迎えられたことを皆様と共に喜びを分かち合いたいと思います。

私事ですが大学を退職し3年が経ちました。大学では解剖生理、病態生理と救急看護（大学院修士課程）の「任」を受け持ちました。この書き方は「教官」の発想です。大学に赴任して新しい環境に適応が求められたのは「教官」の言葉遣いでした。正しくは「教員」の言葉を使わないといけなかったのです。「教員」の言葉を使うように当時の学長、交野先生から注意を受けました。大学赴任前は市立敦賀病院で麻酔科に所属していました。その前は福井医科大学の麻酔・蘇生学講座に所属していました。この時は役職は「教官」でした。この感覚が体のどこかに残っていたのかと思います。

敦賀市立看護大学では学生を指導するのではなく、共に課題を考え、解決して行かなかで学ぶという態度が「教員」には求められていました。この点に気がついたのが最初に思い出される事でした。

こうした体に記憶された学生との関係スタイルが担当科目の授業にも表れていたのかと振り返ると見て取れます。スライドを用いた講義を90分間にわたり行ないました。事前に当日の講義題目は学生には知らされていませんでした。そこで事前学習がなされているのを前提にスライド講義をしました。念のためにスライドは全てプリントし、授業開始時に配布しました。このような授業での教員と学生の関係スタイルは好まれなことが期末試験の結果からわかりました。また、授業の問題ありの投書もあり、当時他の教員の先生の立ち会いを受けたこともありました。

多くの学生は夜や休日はアルバイトをしており、事前学習は期待できないのではないかと考えました。さらに、講義内容は医学分野なので看護学と異なり、学習意欲もなかなかでないのかと推測しました。そこで、教科書を用いた授業方式に変更し、次の授業には前の授業内容の確認テストを行ない、採点し、答案用紙を返しました。さらに、幾つかのテーマをきめて授業中に発表する機会を設けました。その他にも幾つかの試みを行ないました。つまり、具体的な課題目標を達成する学習スタイルに変更しました。期末試験の結果では点数の高い学生が増えた印象でした。クラス全体の平均値の大きな変化を見ることはありませんでした。当初考えていたような結果は得られませんでした。毎年大学にて提出する自己評価はさらなる努力というような書き方でした。

共に考え、解決しながら学ぶ。「教員」が如何に大変であるか、また、何世代も離れた学生と学習するという行為そのものが、教員ベースの評価とは別に、教員において重要なことを学びました。

祝辞が個人的な思い出の話になってしまいました。今、医療と社会環境は予測以上に大きく変化をはじめています。この環境変化を先頭で担う看護師が、学長・内布敦子先生と教員諸先生の皆様の力で、敦賀市立看護大学から輩出され続けることを、また、卒業生を含めた学生のみなさんが大学に学び、次の時代を担う大学を創られることを願っております。

開学当時の思い出

名誉教授 高鳥 真理子

リニューアルされた敦賀市立看護大学を訪れたのは、開学前年の春の頃だったでしょうか。敦賀湾に面した閑静な高台に建ち、空にそびえる切妻屋根とギリシア風の円柱に彩られた白亜の校舎は印象的でした。門から遠く離れた玄関に続くだだっぴろいコンクリートの敷地、もしここが紅葉する並木と芝生に覆われ、ベンチが点在していれば、いっそう学園らしくなるのという思い（幻想）もふとよぎりましたが。

校舎内に入ると、ロビーや研究室前の廊下は、全面が広いガラス窓に囲まれ、柔らかな日差しが降り注いでいました。校舎の改装設計に際し、私の要望も取り入れて頂きましたが、シンプルで清潔感あふれる想像以上の仕上がりに感嘆したことを覚えています。

開設にあたっては、校舎の改築のみならず、文科省の認可申請に向けた膨大な文書作り、関係機関との調整、人材の確保等々、交野前学長をはじめ市の準備課の皆様のご苦労は並大抵ではなかったと思います。とくに、全国的な看護教員不足の中にあつて、教員確保に日々奔走されている交野前学長の姿には、ただただ敬服するばかりでした。敦賀市立看護大学創設は交野前学長の優れたリーダーシップによって成し遂げられたといっても過言ではないでしょう。

敦賀市は人口の少ない小都市なので、当初は入学定員を満たせるかという懸念が付きまといました。ところが、初年度には全国から1000名を超える応募があり、その後も毎年、定員をはるかに上回る倍率が維持されています。受験者が格段に多かったある年、いつ終わるとも知れない小論文の採点に数名の教員と夜を徹して奮闘したことは、今となっては懐かしい思い出です。このように看護職を志す若者が増えているのは、今日の看護教育の大学化の進展が後押しているからではないでしょうか。看護大学の設置は、地域の人材確保に資することはもとより、看護実践のレベルを押し上げる大きな原動力になると思っています。

私は、特任教授として5年間在職しました。学生の皆様は真摯に学習に取り組み、講義中は居眠りもせず(?) 静かに聞いて下さいました。職員の方々はやさしく配慮が行き届き、毎日、心穏やかに過ごすことが出来ました。いつも授業をサポートして下さいました助教の方々には深く感謝しています。

敦賀は自然豊かで四季折々に楽しめる場所がたくさんあります。時折、昼休みに大学前にある運動公園の小さな山を散策し、桜や紅葉、名も知らぬ草木に癒されました。自宅が遠方にあつたため、往復にエネルギーを費やし、美しい敦賀のそこそこを堪能できなかったことは心残りです。

もはや10周年、「光陰矢の如し」をしみじみとかみしめつつ、海辺に面した美しい敦賀市の看護大学で育った卒業生が、看護の新しい時代を切り拓いてくれると信じています。

大学の思い出

名誉教授 茂庭 将彦

敦賀市立看護大学開学10周年おめでとうございます。私自身は開学からわずか6年間と短い間でしたが、敦賀で学生教育に携わることが出来たことをとても懐かしく思っています。多くの学生諸君、教員および職員の皆様と知り合うことが出来たことはとても貴重な経験をさせて頂いたと思っています。

振り返ってみると記憶というものは面白くて、楽しかったことよりは大変だったことをよく覚えています。そのうちの3つほど挙げてみます。

敦賀に赴任して最大の難関は講義の準備だったと思います。それまでも大学で講義を行ったことはあったのですが、専門領域の中の一部を担当したに過ぎませんでした。それがここでは形態機能学や臨床病態学などを1年を通して担当することになっていたのです、何をどのように講義しようか、本当に困ってしまいました。ヒトの身体において一番重要な情報は正常な形態および機能を理解することだと考え、あれもこれもと多くの内容を詰め込みすぎて一方的で難解な知識の押しつけになってしまったのではないかと今になって反省しています。それでも3年前から病院での仕事に復帰していますが、患者さんの病気について説明する際にこの時の苦労が大いに役立っています。

次には、委員会などの規約の作成や委員会や会議の運営方針などを一から作り上げることも大変だった記憶があります。わずか二十数名の教員だったと思うのですが、各人が違った環境で仕事をしてきたため、意見を集約することがいかに難しいかを体験させて頂きました。もっとも私は大声で意見を述べる教員の一人だったので周りの先生たちから煙たがられていたのではないかとこれも反省しています。

3つ目は学生との世代間ギャップも強く感じていました。学生との年齢が40歳以上も離れていたのですから、当然なのですが、思いが中々伝わらないもどかしさや理解に苦しむ行動などもありました。結局はこれも私の独りよがりコミュニケーション不足に過ぎなかったと反省です。

敦賀市は三方を山に囲まれて居ますので自然には恵まれている地域です。大学の周囲も自然に溢れていてとても気に入っていました。春は見事な咲き誇る満開の桜に囲まれて、夏には学生と教職員皆で植えた中庭の芝生の緑が太陽の光に映え、秋には周囲の山々の紅葉が美しかったのを記憶しています。ただ、冬だけは苦手意識が最後まで抜けませんでした。たまに降る大雪には何度も難渋しました。一度、駅前の駐車場から雪に埋もれた車を出すために汗だくになりながら手作業で除雪したこともありました。60歳を過ぎて初めて体験する雪かきがとても辛かったのを忘れることはなさそうです。それでも学食前で花を咲かせる紅梅や白梅をみると春が近いことを感じる事が出来ました。越前そば、パリ丼、へしこ、海鮮丼など、地域の名物を食することも出来ましたし、さらに個人的には大好きな戦国時代に度々登場してくる地域だったこともあり、金ヶ崎城跡、賤ヶ岳、小谷城跡、玄蕃尾跡や一乗谷などに何度も足を運ぶことができました。

4月に入り、働いている病院にも多くの新人が入職してきました。その姿を見ていると卒業生の皆はどうしているかと思ってしまう。特にこの3年は大変な中でのお仕事だったと思います。きっと今後大いに役立つ貴重な経験をしたはず。今後も頑張ってくださいと思います。

教育人生の最後を敦賀で迎えることが出来て

名誉教授 高原 美樹子

私は初代学長、交野先生の縁で敦賀市立看護大学にお世話になり、看護教育人生の最後の5年間を過ごさせていただきました。交野先生とは東京女子医科大学看護短期大学からの縁で、先生が福井県立大学へ赴任してこられ、再び縁が深まり、敦賀にお世話になることになりました。

専門は成人看護学の急性期看護学・救急看護学です。しかしながら、成人領域のチームの先生方にはその領域のスペシャリストの人達がおられ、私としては大いに助けられました。最初の2~3年はその領域の看護を教授していました。そのうち、慢性期看護領域の先生の異動もあり、成人看護学領域のトップという立場で、成人看護学概論や成人慢性期看護を担当することになりました。そのとき、私はあまり躊躇することなく、教授することが出来ました。それは、教員となった若かりし頃、科学的看護論を執筆した薄井坦子先生の看護の考え方を学ぼうとする学習会（看護科学研究会、後に看護科学研究学会）が大阪で始まり、そこへ通っていたのです。薄井先生は東京女子医科大学看護短大の恩師です。科学的看護論は私には難解でしたが、その後もずっと学習を続けてきました。その学習会は事例を中心としたもので、そこでは慢性期患者の事例が多く、そこでの学びが私を少しずつ育ててくれたように思います。そのため、成人看護学概論を担当することになったときもためらわなかったのです。そして、私は一人の人間を、からだ、心、社会関係、時の流れの4視点から、まるごと全体的に把握することの大切さを身にしみて実感していたので、その点を教授してきたつもりです。

授業での思い出は学年持ち上がりのゼミで、数人のグループを担当し、学生が主体となってテーマを決め、自分たちで調べ、話し合い、発表するというものでした。看護は専門職業というけれど、専門性とは何か？等でした。学生の疑問、関心を引き出すという点で、私もどの程度関わったらよいか、少々ストレスもありましたが、結果的に面白いゼミでした。

また、看護教育にとって実習はとても重要な教育形態であり、私の中でも常に大きな位置づけを占めるものでした。敦賀では市立敦賀病院と敦賀医療センターの2施設で行っていましたが、幸いにも大学からとても近く、大学での仕事の合間に駆けつけることが容易でした。特にカンファレンスへの参加は、学生の考えや困っていることを整理し、前に進めるよう促す意味で役に立てたのではないかと考えます。

振り返って5年間という短い期間でしたが、私にとっては看護教育人生のけじめをつけることが出来たという思いが強く、満足感を覚えるとともに、その機会を得られたことに感謝しております。

さて、私は越前市在住で、毎日365号線で1時間の道のりの通勤でした。運転は好きでしたし、365号線は山あいを抜ける道で、景色もよく、車も少なく、苦になりませんでした。敦賀市内も車道が広く、通いやすかったです。大学周辺は田舎道的で、昼休みに交野先生、高鳥先生と周辺を散歩したり、前の運動公園の丘を散策したりしたことが思い出されますが、今思うと運動不足を解消するには少なかったと悔いが残っています。

敦賀での私の仕事をごまでお役に立てたかはわかりませんが、感謝の思いの方が強く残っています。貴学のますますの発展をお祈りしています。

教員生活最後の7年間を敦賀にて

名誉教授 住本 和博

敦賀市立看護大学が開学10周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。私は大阪で生まれ育ち、日本海側での生活経験はありませんでした。大学卒業後、東京の電子機器メーカーに6年、浜松医科大学に22年、川崎市の看護短期大学に13年勤務し、そのまま定年を迎える予定でした。定年2年前の63歳の時に敦賀で看護大学の開学が認可され、北陸の地で勤務する機会を得ることができました。自宅は浜松で、太平洋側が晴天でも、米原を過ぎ敦賀へ向かいはじめると冬場では空が灰色になり、木之本あたりで積雪があるとカラーの世界からモノクロの世界へと一変します。開学一年目はよく雪の歓迎を受け、一夜にして60cmも積もったこともあり、歩いて大学へ向かったものの辿り着けず、戻ってきたこともありました。雪国を理解するにはやはり実際に住んで実生活を体験すべきだと思いました。寒さと雪には悩まされましたが、自然の美しさ、北陸の長閑さ、魚の旨さなどはそれ以上に満足することができました。

情報科学、統計処理、保健統計学の科目担当で、上手くスタートできるかが心配でしたが予め幾度となく連絡を頂き、情報機器、教育システム、統計処理ソフトウェアなど満足するシステムを導入していただけましたことは感謝に堪えません。スムーズにスタートがきれいだったのも、開学に向け努力されてきた皆様のご尽力の賜と深謝申し上げます。私の研究室は情報処理演習室のすぐ隣で学生さんから気軽に声をかけていただき、教職員との距離もより身近に感じとれたのではと思っています。開学とともに多くの委員会が立ち上がり、即機能しなければならず皆様相当の努力をされたと思います。私は情報・広報委員会を主宰しどのように情報をまとめ上手く発信していくか、毎回熱のこもった会議が繰り返されました。関西圏でも敦賀という地名はあまり認知されておらず、大学のシンボルマークを用いて周知させたいと考えました。一年目はそれぞれ彩色した三つの大きな看板を作製し、1年生全員でこれを掲げてもらい、シンボルを模った集合写真を撮影しました。翌年からはパーツ毎にA3の色紙を各自胸にあてがい、在学生全員でシンボルを模り撮影しました。開学4年目に漸く全学年が揃い、完成度の高い写真を大学案内に掲載できたことが印象に残っています。撮影は4月のオリエンテーション時のワンチャンスのみで苦労しましたが、幸いなことに天候に恵まれ毎年満足できる写真を撮ることができました。入学者選抜試験委員会もセンター試験が廃止され、大学入学共通テストの導入と、英語における民間の資格・検定試験の導入の過渡期に主宰し、文科省の方針が迷走し、その対応に苦慮したことが記憶に強く残っております。看護ではコミュニケーション能力、患者さんの心の機微を感じ取る能力が重要かと思えます。この評価に繋がる大学独自の個別試験を実施することは容易ではありませんが今後の皆様の対応に期待いたしたいと思えます。私は看護系教員ではありませんが卒業研究も毎年担当し、メーカーでの経験、浜松医大での周産期分野における研究歴などを生かし、指導できましたことは何よりも喜びでした。もうひと頑張りと思い、敦賀へ赴任したのも昨日のように思います。今後、敦賀市立看護大学におきまして、社会に貢献できる人材を数多く輩出されますことを期待いたしております。

敦賀市立看護大学創立10周年記念に寄せて

—今、思うこと—

名誉教授 畑野 相子

敦賀市立看護大学創立10周年、誠におめでとうございます。

敦賀市は人口約6万人、そこに市立看護大学が設立されるということに驚きを覚えました。なぜなら、その当時、全国でも市立看護大学はわずか1校か2校だったと記憶しています。開学の準備をしてこられた前学長の交野先生から「地域に根差した看護教育をしたい。全ての学生が、自学力、創造力を身に付け、そして世界に羽ばたいてほしい」という教育理念をお聞きし、私もその一翼を担いたいと思いました。そして、公衆衛生看護学領域の教員として仲間に加えていただき、令和2年3月に退職するまで教育・研究に従事してきました。この間、いろいろな思い出がありますが、公衆衛生看護学の教育と地域・在宅ケア研究センターについて思いを馳せたいと思います。

公衆衛生看護学は、未病の人が病気にならないように、また病気の早期発見をして重症化しないようにする「予防」を学問の中心に据えて、講義、演習、実習の学習方法で構成しています。その中でも、保健所をはじめ市町の機関でさせていただく臨地実習は学生にとって重要な学びの場です。どの実習先も保健師学生の実習受け入れは初めてだったのですが、学生は日々の活動に参加させていただき、「住民さんの力ってすごいね」「保健師さんは、住民の生活をよく知っておられる」「地域で組織的に活動をする意味が分かった」など感動の連発でした。どの実習先も、住民の生活をきちんと把握して活動されているので、それをロールモデルとして学ばせていただいたと思っています。また、住民の皆さんも、優しく学生を受け入れて、地域のことを教えてくださいました。実習を終えて、公衆衛生看護学により関心を強め、保健師になりたいと急遽就職先を変更した学生もいました。私たち教員も、学生と共に事業に参加させていただき、学ばせていただきました。本当に、地域で、人に支えられ、人とのつながりの中で学ばせていただいたと今さらながら感謝の念で一杯です。

大学には、地域と大学の架け橋として地域・在宅ケア研究センターが併設され、研究・教育・地域貢献を3本柱とした事業が位置づけられていました。そこに参加させていただき、まずは大学を知ってもらうことを目的に看護大学喫茶を開催し、地域の方に大学に来ていただき、市民と学生と教職員がお茶を飲みながら情報交換しました。その後、研究相談や講演の依頼なども寄せられるようになり、健康講座として発展していきました。今後は研究機関の中心として、地域の課題解決に活用していただき、地域と大学が共同で研究できるようになることを期待します。

敦賀もさることながら、我が国は少子高齢化が進んでおり、18歳人口も減少しています。そんな中でも看護大学は毎年増加しています。学生が「ここで学んでよかった」と思える教育を基本として、さらなる躍進を続けていただきますよう祈念申し上げます。

開学10周年に寄せて

医療法人 川上医院 理事長 川上 究

(公立大学法人 敦賀市立看護大学 元理事)

開学10周年おめでとうございます。今や社会的にも認められる立派な大学として10周年を迎えることになりました。学生の皆さんの努力は無論の事、卒業生そして学内外の多くの方々の献身的努力があったことと推察いたします。開学前と開学後に若干の関わりを持ったものとして、まこと喜ばしく関係の全ての皆様と共に感激を分かち合いたいと思います。

敦賀短期大学と敦賀市立看護専門学校の将来について議論を始めたのは2010年4月。河瀬市長の時代でしたし、最後の敦賀短期大学の学長であられた三橋先生がまだご存命でもありました。短期大学は1986年4月から2013年3月まで28年の歴史があります。瀬戸内寂聴さんが学長を務められた時代もあり、従って文学、歴史について活発に研究、教育が為されていた印象があります。後年にはダンスや音楽の教育にも力を入れていたようです。三橋先生は、4年制の看護大とすることが決定された後、看護大学となっても、短期大学の歴史を踏まえ、文化的教養が豊かで人間性溢れる人達を育てていてもらいたいと常々おっしゃっておられました。このことは、看護大の理事となった、私への注文であり、私との約束でもありました。看護、出産、保健を担う人たちにとって知識、技術は無論の事、体力、さらには豊かな人間性が習得すべき最上位に来ると考えていましたので、その注文は当然のことと私は捉えていました。それ故理事会においては機会があれば、敦賀の歴史を知ってもらい、敦賀の街を好きになってもらうように、そして将来どこに就職してもそれらが記憶に残って頂けるような教育をお願いしました。学生さんが敦賀の街中の様々なイベントに参加されている報告を受けとても嬉しく、頼もしく思いました。その活動は現在も続いているのでしょうか？

私はまた1時間半の講義を年2回、6年間させて頂きました。かなり遠くからの学生さんもおられ、自分の決めた道に進もうという強い意欲の表れかと感心しました。私の講義は、地域医療、在宅医療が担当で、在宅医療では実際に私の訪問診療に同行もして頂きました。講義では医療体制が現在の形となってゆく歴史や、私の父の時代の医療など、体験、実感してきた古い時代の医療の話もいたしました。自分の故郷と比較してもらい、医療には地域性があることを理解して頂き、将来に役立てていただくよう心掛けたつもりです。

皆さん今はどうされているのでしょうか？ 必ずや立派な看護師、助産師、保健師として活躍されている事と思います。看護師、助産師、保健師は医師よりもさらに人間としての広さ、大きさが必要なのではと考えることが最近多くなりました。敦賀という街、敦賀市立看護大学で学び経験したことを基礎にさらに飛躍されんことを願う次第です。学生、卒業生の活躍こそが看護大学の次の10年の発展に繋がると思います。そのことを祈念しつつ、開学10周年の慶びの言葉を結ぶことといたします。

関係者のことば

地域に開かれた看護大学として

美浜町長 戸嶋 秀樹

敦賀市立看護大学の創立十周年に際し、心よりお祝いを申し上げます。

貴学には、開学以来多くの看護人材を輩出し、地域医療の充実と発展に大きく寄与してこられたことに敬意を表すると共に感謝申し上げます。

少子高齢化社会の中で、看護の果たす役割がますます重要性を増し、在宅看護や新興感染症への対応等、看護に求められる能力は高度で専門性も高くなってきています。

一方、看護は健康づくりや介護予防、急性期看護から緩和ケアや終末期ケア等あらゆる健康レベルの方への対応が必要とされています。

このような背景のもと貴学では高い専門性と幅広い知識を身に付けるため、本町と連携を図り、保健師実習を始め災害看護の調査研究等多くの学生が町を訪れ、町民と触れ合い、見識を深めてこられました。

更に、教職員の方々も専門性を活かし、健康教室やコロナワクチン住民接種への協力など町民福祉の向上や健康づくりに取り組んでいただき深く感謝いたします。

新型コロナウイルス感染症の流行により大きく変容した社会の中で、今改めて看護職には他職種と協働する能力や、生命に対する畏敬と尊厳の念を持ち看護を提供するなど、人間性あふれる心豊かな活動が強く求められています。

少子高齢化や多様性など社会を取り巻く環境の大きな変化の中にあつて、貴学の目指す高度な専門技術と幅広い知識を有する人材の育成を期待するとともに、これまで以上に本町との連携を深めていただき、地域に開かれた看護大学として今後ますますのご発展を祈念しご挨拶とさせていただきます。

開学10周年によせて

敦賀市議会 議長 馬 淵 清和

敦賀市立看護大学が開学10周年を迎えられましたことに対し、敦賀市議会を代表いたしまして、心からお祝いを申し上げます。

貴大学におかれましては、地域医療の充実と発展に貢献できる質の高い人材を育成するとともに、地域住民の健康や福祉の向上に寄与する大学として開学され、開学から今日までの間には、大学院や助産学専攻科も設置され、より高度な看護技術の開発や母子保健の発展に貢献し、人々の健康と福祉の向上に取り組まれていることに対し、学長をはじめ、これまで教育・研究、運営等貴大学の基盤づくりに携わられたすべての皆様に深く感謝申し上げます。

開学に当たりましては、敦賀市議会では特別委員会を設置し、その諸課題について調査を重ね、

開学に至ったわけですが、敦賀市をはじめとする嶺南地域への就職や、地域社会の健康や福祉に関するニーズを把握し、住民の健康や福祉に寄与する方策の提言など、地域社会への還元に更なる向上を期待するところであります。

貴大学で学び研究した人間性豊かな学生が巣立ち活躍されますことは敦賀市の誇りであり、貴大学がこれからも質の高い素晴らしい人材を育て、多くの学生の学び舎となり、ますます御発展されますことを御期待申し上げますとともに、教職員をはじめ関係各位の皆様のお健勝と御活躍を御祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

敦賀市立看護大学10周年おめでとうございます

元敦賀市長 河瀬 一治

この度、敦賀市立看護大学が10周年を迎えられました事心からお慶び申し上げます。これ偏に歴代学長先生や関係者のご努力の賜物とご同慶に堪えません。私も創設にかかわった者の一人としてこの上ない慶びです。

敦賀市立看護大学の前身である敦賀市立看護専門学校は看護師不足での地域医療機関からの要請にこたえて、看護人材を育てて来ました。今も多くの卒業生が地域医療に大いに貢献しています。

近年になり、医療の進展に伴い新たに高度な知識を持つ看護職の必要性とそれを旨とする学生の増加に対応する必要性がありました。

当時の市議会や医療関係者のご支援を頂き、看護大学の創設に向けて関係者一同で頑張ってきた当時は懐かしく思い出します。

市議会では大学の必要性など特別委員会も設置をして侃侃諤諤の議論の末理解を頂きました。また、専門学校と大学のそれぞれの担当官庁との交渉事や事務手続きの煩雑など、担当職員の皆様には大変な苦労がありました。私も度々上京して関係者をお願いに回ったものでした。

当時市長として開学を迎えた時の喜びは今も忘れません。また、初入試では全国一位の倍率の看護大学になったことや現在も高倍率であること、今も誇りであります。

これからも高度医療職人材育成のため敦賀市立看護大学が大きく羽ばたく事を期待してお祝いの言葉といたします。

開学10周年に寄せて

敦賀市立看護大学後援会

会長 長谷川 友美

この度、敦賀市立看護大学が開学10周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

看護大学は、2014年4月に開学をいたしました。順調に卒業生を輩出し、現役生の国家試験合格率は、保健師、看護師、助産師共に100%と、着実に教育の成果をあげております。また、教育だけではなく、看護の発展に貢献できる研究にも力を注いでおり、人々の健康と福祉の向上にも貢献しております。ボランティア精神が育まれており、地域活動の貢献にも大変活躍をしております。開学10周年とまだ若い大学ですが、今後更なる発展と活躍が期待されます。

教育で最も大切にされる「実習」では、近年始まった新型コロナウイルス感染症の影響で、思うようにできなかった時期もありましたが、敦賀市

内や、周辺の病院にご協力を頂きながら実践的な実習を行いました。

私たちを取り巻く環境は、これまで以上のスピードで大きく変貌していくことでしょう。皆さんには、これからの時代に果敢に挑戦、活躍されることを期待しております。後援会では、皆さんの活躍を精一杯応援し、学ぶにふさわしいより良い環境を創り出すために、微力ではありますが、力を注いで参ります。

最後となりましたが、敦賀市立看護大学の益々のご発展と、教職員、学生の皆さんのご活躍をご祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

開学10周年記念に寄せて

市立敦賀病院

看護部長 小堀 和美

この度は、2014年の開学より創立10周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

さて市立敦賀病院は、臨床実習施設として多くの学生実習を受け入れてきました。その中で2020年、新型コロナウイルス感染症が拡大し、今まで実践してきた感染対策では太刀打ちできない状況下で、看護学生は予定していた実習が急遽できなくなり、学内実習への変更を余儀なくされました。この3年間、ほとんどの実習が学内であった看護職員もいます。当たり前に行っていた実習がほぼできなくなり、不安も強かったことと思います。それでも、貴学側のご尽力と受け入れ病院の連携で、できるだけ実習に臨んでいただける環境を整えてきました。

令和5年5月から、新型コロナウイルス感染症

は感染症法上では5類感染症へ変更されますが、まだまだ未知なる部分もあります。看護学生は、今後も変化していく環境に耐えていかなければならず不安も大きいと思います。しかし、どんな環境下においても貴学は看護実践能力を重要視され、常に看護学生のことを考えておられる大学です。看護学生を受け入れる臨床現場も、貴学と連携をとりながら、安心して実習できる環境を整えていきたいと考えております。

創立10年間では様々なご苦勞をされたことと拝察し、貴学がこれからも看護学生の頼れる学び舎となられ、より一層ご発展されますことを心よりお祈りいたします。

10周年の記念に寄せて

敦賀医療センター

前看護部長 西前 慶枝

(現 おおさかグローバル整形外科病院 看護部長)

敦賀市立看護大学が創立10周年を迎えられましたことに対し、心からお祝いを申し上げます。

私ごとで恐縮ですが、今から5年前の2018年(平成30年)4月に、ここ敦賀の地、国立病院機構 敦賀医療センターの看護部長として着任いたしました。この年の4月と言えば、ちょうど貴校の第1期生が専門職業人として夢を実現させ、それぞれ社会に飛び立った記念すべき年でもあります。当方、敦賀医療センターにも3名の卒業生が「看護の道」の第一歩を踏み出してくれました。初代学長の交野好子先生から引き継がれている教育理念の、一豊かな教養と総合的な判断力、高度な専門的知識と実践力を有する社会に貢献できる看護師の育成—どおり、患者さんのことを第一に考えられる自立した頼もしい先輩看護師

として成長してくれています。

また、時期を同じくして、2018年度には、大学院看護学研究科が開設されました。この学びの環境ができたことの意義は大きく、看護師として臨床現場で経験を積み積むほどに、さらなる学修を深めたいという思いに至った時、「職場を離れなくてもいい。働きながら学びを深められる。」という恵まれた環境が整っているということは、心強い後押しとなりました。改めて感謝申し上げます。

おわりに皆さま方のますますのご活躍、さらなる次の10年20年に向かって貴校のご発展を心から祈念して、創立10周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

開学10周年に向けて

医療法人保仁会 泉ヶ丘病院 湯の里ナーシングホーム
虹の丘

参与・看護部長 角田 敬子

この度は、公立大学法人敦賀市立看護大学開学10周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

この10年多くの優秀な看護人材を輩出し、地域の活性化にも影響を与えてくれたと思います。思い起こせば開学準備時期に、この地域環境に於いてどのような看護人材が必要かを医療現場の立場としてご一緒にお話をさせていただいたことが今はとても懐かしく思い出されます。原子力発電所立地地域としての特色に、災害や救急に特化した看護人材育成の必要性が重視されたことを感慨深く思い、「救急・災害看護研究センター」が設置されたことに大きな期待と安心感を抱きました。

当医療法人保仁会は病院と介護老人保健施設を併せ持った地域に密着したケアミックス型の施設

です。これまで看護学生の皆様には実習の場を提供してまいりました。受け入れる看護スタッフにとって学生の皆様の看護に対する真摯な姿勢は良い刺激となり、新たな看護提供の問題に気づかされ改革につながっています。

「人生100年時代」を迎えた今、多様な看護人材の育成が重要となり、地域に大きく貢献できる優秀な人材を大学と実践の現場が協力して育成していくことが望まれます。学生の皆様の実習施設として、また卒業生の皆様の受け皿となれるよう微力ながら今後も努力し貢献していきたいと考えております。

今後も敦賀市立看護大学の益々のご発展と皆様方のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

敦賀市立看護大学開学10周年に思うこと

医療法人敦賀温泉病院

理事長・院長 玉井 顯

敦賀市立看護大学開学10周年おめでとうございます。いつも楽しく講義させていただいています。開学当時に予測していた未来の認知症看護・医療は、現在遥かに超えたものとなりました。

講義でも触れましたが、アルツハイマー病の発見は1906年に遡り、長い間有効な治療法はありませんでした。しかし、科学の進歩とともに現在では髄液検査だけでなく血液検査でもスクリーニングされるようになりました。画像診断では脳の機能はもちろんのことPETにより脳の何処に異常蛋白が蓄積しているかさえわかるようになりました。アルツハイマー病は不治の病ではなくなったということです。今後は認知症の前段階MCIで治療されるようになり、認知症の啓発（認知症サポーター養成講座）や早期発見がさらに重要に

なってきます。

認知症サポーター数は福井県が全国で2番目に多い県です。中でも敦賀市は特に認知症の啓発がさかんなまちとして、市をあげて「認知症ほっとけんまち敦賀」をスローガンに取り組んでいます。2022年、敦賀市で第4回地域共生社会全国推進サミットが開催され、敦賀市の認知症に対する取り組みの知名度も上がりました。

敦賀市立看護大学におかれましては、敦賀市の「ほっとけんまちづくり」を看護面から大学として認知症の啓発や予防、訪問看護、認知症における緩和ケアなどに力を入れていただきたいと期待しております。

敦賀市立看護大学開学10周年に寄せて

杉田玄白記念公立小浜病院

看護部長 中村 ひとみ

敦賀市立看護大学におかれましては、開学10周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。貴学が、これまでに保健・医療・福祉に携わる多くの卒業生を輩出され、各々が現場で研鑽を積み、大いにご活躍されていることに敬意を表しますと共に、感謝を申し上げます。

少子高齢化の進展、人口構造の変化、近年の社会経済状況等、この10年で医療を取り巻く環境は著しく変化しました。その変化に対応すべく看護のあり方も多様化してきました。そのような中においても、看護職の心は常に患者・家族を思い、それは激動の時代の中にあっても揺らぐことなく継承されてきました。私は、その原点は看護基礎教育にあると考えています。看護職は、知識や技術だけではなく「看護とは何か」を考える思考や

感性、そして人間性を育まなければなりません。そのためには、貴学での学びを臨床実習や現任教育で統合、成熟させる必要があります。まさに教育現場と臨床現場は両輪で歩いていくことが不可欠であり、次世代を担う看護職の育成は私達看護管理者の重要な責務であると考えます。よって私達看護管理者も、変化していく時代において、看護職がさまざまな場で人々を支える専門職としての役割を發揮できるよう、人材育成に尽力していかなければならないと決意を新たにしております。

結びに、敦賀市立看護大学のますますのご発展と関係者の皆様のご健勝・ご活躍を祈念申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。

開学10周年記念に寄せて

レイクヒルズ美方病院

総看護師長 窪田 裕子

敦賀市立看護大学がこの度10周年を迎えられること、誠におめでとうございます。

この10年、社会や医療・看護を取り巻く情勢は大きく変化してきました。私たち看護職は、専門知識と技術を身につけ看護を実践してきました。地域包括ケアシステムの構築とともに療養の場がくらしの場にシフトする中、多様な場で役割を發揮することが求められています。

貴大学は、「豊かな教養と総合的な判断力、高度な専門的知識と実践力を有する人材の育成」を理念とし、社会のニーズに応じた多くの優秀な人材を送り出されたことと存じます。大学教育のみならず、地域の看護職の看護教育、研修や研究の拠点として体制を整えてこられたこと、また、大学院や助産学における専門知識、技術を身につけ

た看護職者などを育成してこられたことは大変意義深く、地域の活性化に影響を与えてくれていると思います。

レイクヒルズ美方病院では、2020年より貴大学の臨地実習をお受けしています。当院にとっては初めてのことであり、実習受け入れに不慣れな看護職員や環境など多々ご迷惑をおかけしたこともあったと思います。しかし、先生方のご配慮で情報交換もスムーズに行うことができ、現在はより良い実習の場を提供できるよう取り組んでおります。

2024年春には北陸新幹線敦賀開業となり活気づくとともに、敦賀市立看護大学がこの地において今後も更なる発展を遂げますことを祈念してお祝いの言葉と致します。

開学10周年に寄せて

福井赤十字病院

副院長兼看護部長 真鍋 照美

敦賀市立看護大学開学10周年おめでとうございます。教職員の皆様をはじめ関係者の皆様に心より祝い申し上げます。

貴大学では、地域、在宅、救急・災害の3つの分野から1つを選び、それぞれの専攻に比重を置いた科目を履修し、より深く学ぶことで、深めることの意味や「学び方」を学ぶ、「応用看護3分野の専攻」に取り組まれています。専門職として生涯学び続ける姿勢を備えた優秀な人材が、当院はじめ多くの医療機関で活躍されていることは素晴らしいと思います。

また、看護の臨床実践能力を重視した教育に力を入れておられ、熱意を持って教育に取り組んでおられる貴大学の教職員の皆様との、実習に関する意見交換も常々楽しみにしております。学校側

と臨床側との連携は実習の成果に直接繋がると考えています。私共は、実習施設として、コロナ禍でもできる限り実習を受け入れてきました。今後も、学生の皆様が患者さんとの関わりにやりがいを持って、楽しく実習が進められるよう支援していきます。

当院に入職された貴大学の卒業生は、コミュニケーション力に優れ、患者・家族の思いに対し深く看護介入できる方が多いと感じています。これも教職員の皆様のご指導の賜物と感謝申し上げます。時代のニーズに即した柔軟な対応ができ、今後の看護界を担う若い力を育成していただくことを今後とも期待しております。最後になりましたが、貴大学の益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

10周年に寄せて

福井県済生会病院

副院長併看護部長 脇 和枝

敦賀市立看護大学開学10周年おめでとうございます。

福井県内で初めて大学名に「看護」が付いた看護職を育てる看護専門大学が出来たことに、驚きと共に非常に嬉しく感動したことを今でも思い出します。大学に訪問させて頂き、自然豊かな中で先生方と信頼関係を深めながら伸び伸びと学習をされている看護学生の姿を拝見した頃から、こころ豊かな感性・人間性を育む教育現場にふさわしい環境であると感じています。また大学の特徴の一つに「救急・災害看護学」があり、学生時代にAHA（アメリカ心臓協会）のBLSヘルスケアプロバイダーの取得にも積極的に取り組まれており、教育と実践を結びつけていることも素晴らしいと感じています。

当院においては、第1期生2名が就職してからこれまで貴大学出身者7名が活躍しています。その看護師からは「優しい先生方や恵まれた環境の中で楽しく学びを深めることができました」と学生時代の話聞いています。今では当院の理念である「患者さんの立場に立って考える」看護を提供できる頼もしい看護師に皆さん成長しています。

現在は当院において「看護マネジメント実習」を受けています。数名の患者さんを受け持ち、多職種と協働しながら患者さん中心のチーム医療を推進している臨床の現場で学生と職員が共に学び合い成長し合えることを願っています。

おわりに、敦賀市立看護大学の今後の益々のご発展を心よりお祈りしお祝いの言葉といたします。

開学10周年のお祝い

明峰クリニック

院長 木村 晃朗

敦賀市立看護大学の開学10周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

敦賀市立看護大学は、10年間で数多くの優秀な看護師を育成し、地域医療に貢献してきました。看護師は、医療現場において欠かすことのできない存在であり、その重要性はますます高まっています。敦賀市立看護大学が、このような優秀な看護師を輩出することで、地域医療に大きな貢献をしていることは言うまでもありません。

また、最近では在宅医療のニーズが高まってきており、看護師がその中心的な役割を担っています。

在宅医療は、患者さんが自宅で医療を受けることができるため、その安心感や利便性は大きなものがあります。しかしながら、在宅医療には様々な課題があります。その一つが、在宅での医療に

必要なスキルや知識の不足です。そのため、看護師には在宅医療に必要なスキルや知識を身につけることが求められています。

敦賀市立看護大学では、そのような需要に応えるため、在宅医療に必要なスキルや知識を学ぶ機会を提供しています。私自身も在宅医療に関する講義を担当させていただいております。敦賀市立看護大学が、地域・在宅ケア研究センター事業を通し様々なボランティア活動や健康講座など地域住民に対して積極的に取り組んでいることには、大変感銘を受けています。

今後も、敦賀市立看護大学が、地域医療の中心となり、地域の健康増進に寄与することを期待しています。

開学10周年に寄せて

一般社団法人たきざわ助産院産前産後の家

代表理事 佐野 裕子

敦賀市立看護大学の開学10周年、誠におめでとうございます。開学以来、地域に開かれた大学として、地域活性化の一翼を担ってこられました。また前代未聞のコロナ禍においても対面での実習実現のためご尽力される先生方を目の当たりにしてきた一臨床現場として、学生の皆様への深い愛情を感じてまいりました。御校がいかに臨床での実践を重視されているかを改めて知ることでもあり、大学のあらゆる関係者の皆様に心から敬意を表する次第であります。

当助産院は、開学以来母性看護学実習および助産学専攻科実習で関わらせていただいています。小さな施設での実習にすぎませんが、地域の母子支援の場でどのような実践がなされているのかを学んでいただいています。そこでは、母性領域に

限らず、地域臨床現場においてしか感じることをできない人と人との間に行き交うものを、学生の皆さんがしっかり受け取る姿があります。この現場に送り出してくださる先生方の的確なイントロダクションがあればこそその気づきがいつもあるように感じています。このように、大学と学生さんと地域が一体となって学びを深めていけるよう、今後も微力ながら応援させていただきたい思いです。

バス待ちや、大学までの坂道でさわやかに風に乗って進む在学生の皆さんの姿を、地元の中高生の皆さんが憧れを持って観ていることを感じます。今後さらなる発展と皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

敦賀市立看護大学開学10周年に寄せて

福井県医療生活協同組合
つるが生協在宅総合センター和

施設長 酒井 真由美

このたび敦賀市立看護大学が開学10周年を迎えられますことを心からお祝い申し上げます。内布学長をはじめ大学関係者の皆様には豊かな人間性を兼ね備えた優秀な人材育成に日夜尽力されていることに敬意を表し、高度な知識を持つ看護師を数多く県内外のさまざまな領域に輩出されていることに感謝いたします。

当施設は、貴学の看護実習先として訪問看護ステーションハピナス、生協居宅介護支援事業所、デイサービスてくてくの3事業所がお世話になっております。病気や障害があっても住み慣れた地域や自宅で、その人らしい生活が続けていける看護・介護・居宅支援を目標としています。在宅での治療継続を支える訪問看護実習では、利用者の価値観、生活習慣を大切に生活の場で看護を実践

する訪問看護師の活動が学生の心に刻まれるよう心がけています。そして、学生とふれあう利用者の表情は、とても生き生きしており、その瞬間が私たち看護師の喜びでもあります。

このまち敦賀で学び暮らした貴学の学生が、卒業後もこの敦賀で暮らしたい、働きたいと思っていただける、そんな敦賀にしていきたいです。

敦賀市立看護大学が地域に根差し、広く社会と地域に貢献できる人材を育成する大学として今後ますます発展されますことをお祈りしまして、お祝いの言葉といたします。

実習生との出会いに感謝

敦賀市福祉保健部健康推進課

課長 笹田 みつぎ

敦賀市立看護大学の開学10周年、誠におめでとうございます。

当課が、初めて公衆衛生看護学実習の学生を受け入れたのは、平成29年5月。当時の私は、実習担当として関わりがあり、このように寄稿の機会をいただきましたことに感謝申し上げます。

学生の皆さんに、実り多い学びをしていただくにはどうしたらよいだろうか、どのような事業を経験していただくとよいだろうか、様々悩みながらの日々でした。しかし、そのようなこちらの不安をよそに、学生の皆さんは、非常に意欲的に積極的に実習に向き合っておられ、その姿勢や学生さんお一人お一人の顔を懐かしく思い起こしています。

日々のカンファレンスで、様々な質問を受ける

度、私たち保健師が、日々の取組みを振り返り、改めて業務を整理する機会となったことは、学生実習を受け入れたおかげだと感謝しております。

そして、当課での実習を経て、「保健師を目指します」という声を聞くことができたことは、実習担当者として非常に嬉しく、大きな喜びになっていました。

目まぐるしく変化する時代背景の中、今後、保健師の業務は更に多岐に渡り、求められることも多様化し、対応に苦慮することも多いかと思いますが、「住民の生活に添う仕事ができる保健師」の職に誇りを持ち、自信をもって進んでください。皆様の御活躍を願っております。

開学10周年に寄せて

福井県嶺南振興局二州健康福祉センター

前所長 久住 健一

(現 福井県丹南健康福祉センター所長 兼 医幹)

敦賀市立看護大学がこのたび開学10周年を迎えられましたこと真に喜ばしく、心からお祝い申し上げます。

わたくしども二州健康福祉センターは、敦賀市立看護大学4年生の地域看護学実習として保健所実習を担当いたしておりますが、地域全体を看(み)る、衛(まも)る、という公衆衛生の基本から、実際地域に向けておこなわれている保健所業務全般までについて、医療とは異なる公衆衛生の役割や魅力をできるだけ実感していただけるように、プログラムを組み立てております。

この3年間はコロナ禍で、われわれ保健所の感染症サージ(急速な拡大)対応機能の脆弱性が明らかになるとともに、地域の保健・医療・福祉のハブを担う機能にも激しい負荷がかかったことで、

実習に参加される学生の皆様、実習教員の皆様には幾ばくかの御迷惑をおかけしたのではないかと危惧しております。

21世紀は再び感染症の世紀になる可能性も現実味を帯びており、われわれには今回の教訓を集合知として地域と次世代に広げていく義務があると考えますので、今後の地域看護学実習のプログラムにも反映していけたらと考えております。

開学10周年の歴史の1ページに言葉を寄せる機会をいただいたことに感謝するとともに、これから10年20年とさらなる高みに向かって、敦賀市立看護大学のご発展と関係者各位のご健勝、ご活躍を祈念して、お祝いの言葉といたします。

お祝いのことば

福井県嶺南振興局若狭健康福祉センター

前所長 四方 啓裕

(現 二州健康福祉センター所長)

敦賀市立看護大学が開学10周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

貴学は看護師、保健師の看護職能を養成する大学として、平成26年4月の開学以来、これまでに多くの優秀な卒業生を世に送り出してこられました。卒業生たちは県内の医療機関はもとより、全国各地において幅広い分野で活躍されております。これもひとえに学長様をはじめ、教職員ならびに関係者の皆様の弛まぬ努力の賜物であり、心からの敬意と感謝を申し上げます。

当センターでは、開学当時より保健師免許の取得を目指す保健師養成課程の学生実習を受け入れさせていただきました。保健師の活動の実際をみていただいておりますが、貴学の教員が帯同なさり、現場での議論に加わってくださることによって、

学生のより深い気づきや学びにつながるとともに、当センター職員へも良い刺激となっております。

我々、保健医療の専門職は常に知識と技術を磨き、地域の保健・医療・福祉の向上に寄与することが使命です。今年度からは当センターにも初めて卒業生が配属されましたが、今後も引き続き、高い使命感と倫理観を有する人材を輩出いただくことを期待しております。

結びに貴学の更なる御発展と、在校生・卒業生の皆様、そして教員の皆様のますますの御健勝と御活躍を祈念して、10周年の記念に寄せる言葉とさせていただきます。

敦賀消防団機能別班について

敦賀消防団 団長 打 它 正 人

このたび、貴学が開学10周年を迎えられましたこと、誠に慶ばしく、ここにお祝いを申し上げます。

さて、敦賀消防団は、一般消防団員（定数280名）及び機能別班（定数15名）の合計295名にて、災害のない安全で安心なまちづくりを目指し消防団活動を行っております。

そのうち機能別班については、平成29年6月、敦賀消防団に新たに敦賀市立看護大学の学生15名をもって学生消防団員として発足しました。機能別班は、心肺蘇生法等の応急処置の国際ライセンスを持っている看護学生3、4年生を中心に編成されており、年間を通じて各地区や事業所等における普通救命講習等の応急手当普及啓発活動や、万が一、大規模災害が発生した場合でも後方

支援活動を展開できるよう各種防災訓練に参加しております。

今後とも、看護に関する専門的知識を大いに発揮され、消防職員と連携し救急救命に関する講習や市民への応急手当普及啓発等の任務に積極的に取り組んでいただくとともに、この活動をご自身の将来にも役立てていただくよう期待いたしております。

結びになりますが、敦賀市立看護大学の益々のご発展並びに皆様方のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

敦賀市立看護大学開学10周年記念に寄せて

公益社団法人福井県看護協会

会長 江 守 直 美

敦賀市立看護大学が開学10周年を迎えられますことを、心よりお慶び申し上げます。10周年という節目に記念誌を発刊されますことは、大変意義深く、企画編集に携われた皆様に心から敬意を表します。



敦賀市立看護大学におかれましては、平成26年4月に看護学部看護学科が開学され、平成30年に大学院看護学研究科と、助産学専攻科が設置されました。開学以降、現役生の国家試験合格率100%と着実な成果を上げ、優秀な看護職の育成にご尽力されております。

一方、地域・在宅ケア研究センターと救急・災害看護研究センターでは、地域住民への健康情報の発信や地域看護職への研究支援、地域防災教育など、様々な地域貢献を行ってこられました。こ

のことは、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの中でも、地域住民への「防災とコロナ感染症対策」や手指衛生等の出張講演を積極的に行っていることから明らかで、大学が地域住民の厚い信頼に応え、地域になくてはならない大学である証と確信した次第です。

福井県看護協会といたしましても、教員の皆様には、看護の質向上のための様々な事業へのご協力・ご支援をいただき、深く感謝申し上げます。これからも、県民の皆様へ安心して適切な医療・看護を提供する看護職を育成する大学として、敦賀市立看護大学の今後益々のご発展と教職員の皆様のご活躍を心より祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

地域に結びついた
研究センター



地域に学び、地域に還すことをめざして

地域・在宅ケア研究センター長 家根 明子

地域・在宅ケア研究センター（以下、研究センター）は地域の人々の健康を守り安心して暮らせることを目指した活動の拠点として2014年（平成26年）4月に設立されました。現場に学び、地域に開かれた教育研究を推進するという看護学の特色の具体化に向けて、看護職や医療保健福祉機関等との交流・連携を深めています。そして、健康に関する課題とその解決方法を探求し、大学における学術研究の充実と、看護職の資質向上に寄与することに努めてきました。

近年は、人々が住み慣れた地域で安心して自分らしく最期まで暮らすために「健康への意識づくり」と「互助を基盤とした地域づくり」が重要な課題とされています。このため研究センターでは「看護大学健康講座（以下、健康講座）」という事業を通してその課題解決の探求に努めています。この健康講座は、講演や体力測定・健康相談とともに、交流の場を設けることを目的に、2015年度から開始しましたが、2022年度からは“人々が集まる身近な場は、互助の基盤となる”という考えのもと、地域住民になじみがある公民館でも開催するようにしています（写真1・2）。事業では、「学生サポーター養成講座¹⁾」を受講した学生も参加し、地域住民の方々にあたたかく見守られながら自分たちで企画した「認知症予防と健康づくり」という健康教育を実践しました（写真3・4）。これらの取り組みに、地域の方々からは「人



写真1 看護大学健康講座：参加者と学生の交流（栗野公民館 2022年9月撮影）



写真2 看護大学健康講座：参加者と学生の交流（栗野公民館 2022年9月撮影）

との交流は、互助が生まれるきっかけになることがわかった」「ここ数年は人と触れ合うことから遠のいていたので、地域の人や学生と交流できてありがたかった」「地域の大学だからこそ一緒に健康づくりに取り組みたい」など多くの期待が寄せられました。さらに、敦賀市は認知症を有する療養者の割合が高いこ

とから、教員もこの機会を捉えて、「地域住民の認知症への意識と取組の実態」という研究に取り組みました。今後、この結果を公開して認知症になっても安心して暮らせる地域づくりの一助を担えるように努めたいと思います。

2021年度に受けた大学教育質保証・評価センターによる認証評価においても、研究センターは

「大学における地域貢献の拠点として、地域住民をはじめ多くの関係機関からの期待に応えるものとなっており、活動に参加する学生にとっては住民との交流による実践的な教育の場になっている」と大変高い評価をいただきました。今後も研究センターとして、健康課題と教育・研究・地域貢献を有機的に繋ぎながら、活動を発展的に展開していきたいと考えます。そのために、「地域に学び、地域に還すこと」を大切にし、教育・研究活動の更なる充実、地域住民の健康づくりへの寄与を目指していきたいと考えています。

最後に10周年を迎えることができたことは、ひとえに平素から支えてくださっている地域の方々、教職員、学生の皆様のおかげです。また、研究センター長として今日の基盤を築いてくださった初代センター長の交野好子先生²⁾、二代センター長の畑野相子先生³⁾に深く感謝申し上げます。



写真3 学生サポーター養成講座：地域でのフィールドワーク（栗野地区 2022年9月撮影）



写真4 看護大学健康講座：学生による健康教育（栗野公民館 2022年11月撮影）

【注】

- 1) 学生サポーター養成講座：学生サポーターを志望する本学学生が、研究センター事業への参加を通して健康づくり支援を学ぶ講座である。内容は、センター事業の理解・学生サポーターの役割、地域の理解からなる。
- 2), 3) 敦賀市立看護大学名誉教授

災害時の迅速な対応と連携システムの構築を目指す 「救急・災害看護研究センター」

救急・災害看護研究センター長 山崎 加代子

救急・災害看護研究センター（以下、本センター）は、安全安心な地域社会の発展に寄与することを目的として、2017年（平成29年）4月に設置されました。救急看護及び災害看護に関する研究・教育並びに災害発生時に必要とされる救急支援に関する事業を行っています。敦賀市をはじめ、嶺南地域は原子力発電所の立地地域であり、危機管理能力の向上が重要です。また、地震・津波などによる自然災害が発生した時には、いかに迅速に対応できるかが住民の命を左右する重要な鍵となります。そのため、設置当初より地元の消防機関や他大学と連携して、救急や災害に関連した資格取得や研修会等を企画・運営し、学生並びに地域の看護職者の知識・技術の向上と維持、地域における心肺蘇生法など応急手当の普及などに努めています。

本センターの事業のひとつである「敦賀消防団機能別班（以下、学生消防団員）活動」では、3年次に応用3分野の救急・災害看護学分野でAHA BLS Healthcare Provider Course（American Heart Association Basic Life Support）の公式コースの資格を取得した学生の中から毎年15名が地元消防組合の学生消防団員となり、地域や小中学校等で心肺蘇生法講習会の指導員として活動しています（**図1.2**、**写真1**）。さらに2019年度より、新たな活動として、救急・災害看護学分野を選択した学生が地域に根

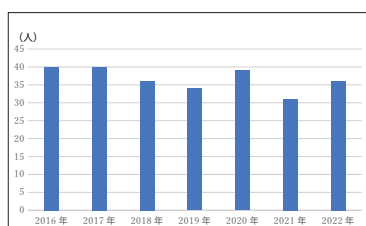


図1 BLS講習資格取得者数の推移

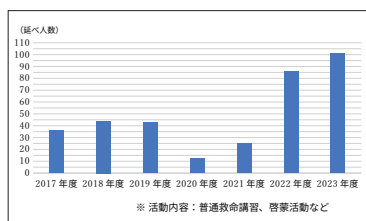


図2 学生消防団員の活動状況

具体的には「救急・災害看護のニーズ調査」では、大学と自治体との協働でのプロジェクト体制で取り組んでいます。学生が地域へ調査に伺い、その調査結果をもとに災害時に配慮が必要な方や災害に備えるための課題について、自治体や地域住民の方々と学生とのディスカッションの機会を設けています（**写真2**）。このように、本センターの活動が地域住民

の安全な生活を守る一つの方法として、エビデンスに基づく知識と技術を習得したAHA BLS取得者を継続的に輩出しています。さらに、AHA BLS資格を修得した学生は一つの自信に繋がり、積極的に地域との関わりを持つことができるようになっていきます。また、救急看護・災害看護関連の教育・研究を通して災害の備えを地域住民にも考えていただく機会を提供することと、学生による社会貢献を有機的に合わせた事業を展開しています。

これらの活動は、積極的な学生たちと活動を温かく支えてくださった地域住民の方々のおかげで継続できています。今後も、学生と地域住民との交流の機会を持ち、有事の際に地域住民の命と安全を守るシステムへと繋げていきたいと考えています。また、救急・災害看護研究センターは、救急看護および災害看護に関係する研究を行い、結果を公開していきます。そして、それらから学び得た知識や技術を活かし地域に貢献できるよう取り組んでいきます。また、敦賀市の特徴でもある原子力についても災害看護教育プログラム開発の観点から研究的に臨みたいと考えています。

最後に、10周年を迎えることができたのは、地域住民の方々、教職員、学生の皆様のご協力があったおかげであり、また、初代センター長の茂庭将彦先生^{※1}と二代センター長の高原美樹子先生^{※1}により築き上げられたことに深く感謝申し上げます。



写真1 BFC（少年消防）
クラブ員救急講習会
（中郷小学校2022年6月撮影）



写真2 防災意識調査報告と
地域住民との意見交換会
（昭和町会館2022年10月撮影）

注）2020年度の活動は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を受けて、感染症に関する正しい知識と感染対策の普及に繋がる「動画作成」などに取り組んだ。

【注】※1）敦賀市立看護大学名誉教授

【参考資料】敦賀市立看護大学「救急・災害看護研究センター活動報告書」2017-2019年度、2020-2022年度。
<https://tsuruga-nu.ac.jp/pages/245/>, (2023年5月閲覧)

学生のこゝば

看護師の道 大学生から管理職までの歩み

株式会社 Footage 訪問看護ステーション

管理者 伊藤 美雪

(2014年看護学部入学)

皆様、こんにちは。福井県大野市出身の伊藤美雪と申します。ここに、私の大学時代から現在に至るまでの看護師としての旅路を綴らせていただきます。

大学時代、私は勉強が苦手で、教授陣を困らせてしまうことも少なくありませんでした。その一方で、そこでの学びが救急医療に対する深い関心を生み出し、私が三次救急の呼吸器内科に足を踏み入れる原動力となりました。その後3年間、救急の現場で働き、患者さんやそのご家族と向き合いながら、人生の厳しさと温かさを学びました。そして、その経験が今の私を形作っています。

現在はFootage訪問看護ステーション瑞穂店の管理者として、自宅で過ごす患者さんやそのご家族のサポートをしています。看護師としての役割

だけでなく、システムの改革に取り組む管理職としての役割も担っています。看護師の生活やキャリアを考え、より良い環境を作るための改革を進めています。

後輩の皆さんへのメッセージとしては、自分の価値観を大切にし、自分らしい人生を歩むことを心から願っています。看護師としての仕事は困難な場面も多いですが、その一方で大きなやりがいもあります。自分の道を追求し、自分らしさを大切にしてください。

私のこれまでの軌跡が、皆さんの看護師としての道筋の参考になれば幸いです。在宅医療の現場で、新たな挑戦を続ける私の活動を、引き続き応援していただければと思います。

敦賀での出会いを大切に

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院

看護師 高原 里佳

(2014年看護学部入学 旧姓 江頭)

開学10周年誠におめでとうございます。私は1期生として入学しました。入学当初は先輩のいない、同級生57人だけの小さな大学でした。その分、先生方や職員の方との距離が近く、和気あいあいとしてアットホームな雰囲気でした。

卒業後は地元の病院に就職し、心臓血管外科と循環器内科の病棟に配属されました。そこで術後の合併症や心不全などによって、元の生活に戻るのが難しい患者さんを担当しました。担当の患者さんにどのような支援が必要か考える時、大学での学びが役立ちました。特に、在宅看護学実習で訪問した施設の様子や、訪問看護師、ケアマネジャーの役割を思い出しながら、患者さんやご家族、多職種間で退院調整に取り組みました。元気に退院される患者さんの姿が私の励みとなりまし

た。その後、新型コロナウイルスの流行に伴いコロナ専門病棟へ異動しました。若年の方でもあつという間に重症化する、コロナウイルスの脅威を目の当たりにしました。感染者数の減少に伴い病棟が再編され、現在は救命救急センターに勤めています。集中治療特有の看護技術や深いアセスメントが求められ、緊張と学習の日々です。

仕事が忙しくなると、ふと敦賀を思い出し懐かしくなります。その時は大学の同級生と再会し、当時の思い出や就職後の苦労を共有して励ましあってきました。学生のみなさんも、ここで出会った仲間や学びを大切にしてください。これからを過ごしてもらえたらと思います。

大学生活を振り返ってみて思うこと

看護師 宮下 真菜

(2015年看護学部入学)

この度は開学10周年おめでとうございます。私が入学してからもう8年の月日が流れたのかと、とても驚いています。この8年間はとても早く感じています、とても色濃い日々だったように思います。

大学生活を思い浮かべた時、最初に出て来るのは大学で出会った友人や先生方のことでした。正直、テストや実習、国家試験がある大学生活は楽しいだけのものではありませんでしたが、一緒に頑張れる友人達や近い距離感に立ってくださる先生方のお陰で乗り切れ、卒業することができました。その友人達とは今でも良い関係を築けています。また私は、大学祭の実行委員や福井県5大学連携企画にも参加させて頂きました。多くの人達と積極的に関わっていくことや、人をまとめたり引っ張ったりしていくことが得意ではない私にとって、上手くいくことばかりではありませんでしたが、失敗から学べることも多く、人として成長させて貰える機会だったと思います。

私は今、看護師として病棟勤務をしています。最初

でしたが、優しい先輩方に恵まれたため、ゆっくりでも丁寧にしていけば良いこと、失敗しても何が失敗に繋がる行動でどうすれば良かったのかを考え、次に繋げていけば良いことを教えて頂きました。初めての社会人で全てが不安になっている時に「大丈夫、それで良いよ」と肯定してもらえて、本当に救われました。後輩が出来てからは、後輩を見て学べることで学べることも沢山あると知りました。優しく丁寧に教えて頂いたことを思い出しながら私も接するようにしています。

看護師という職の強みは、就職する場所によって内容が全く違うことだと感じています。今学んでいること、これから学んで感じていくことを大切にしながら、どの道で働いていきたいか、ゆっくり見つけていってください。

最後に、この大学生活の4年間はとても貴重な時間だと思えます。大変なことも沢山あると思いますが、それも含め、皆さんの大学生活が最高の時間になれば嬉しいです。

大切な仲間と出会えた看護学生時代

京都大学医学部附属病院

看護師 太田 菜々子

(2015年看護学部入学 旧姓 岩佐)

この度は敦賀市立看護大学創立10周年おめでとうございます。私を看護師として社会に送り出してくれた母校が歴史を重ねて発展され続けていることを非常に嬉しく思います。

私は第2期生として敦賀市立看護大学で看護学を学び、看護師になって5年目を迎えました。近年、新型コロナウイルス感染症により医療現場がひっ迫する場面が多々ありました。働き出してから約1年後に流行し始め、看護師としてまだまだ未熟な私は自分自身も大きな不安を抱きながら仕事をしてきました。それでも患者さんからすれば、ベテランの先輩も未熟な私もみんな同じ看護師であり、同じように一員として目の前の患者さんの看護にあたる中で緊張の毎日が続きました。そんな中で大学の仲間と連絡をとり、悩みを相談

し合ったり、たわいもない話をしたりすることで頑張ろうと思える日もありました。就職先は違っても、たくさんのテストやレポート、実習、国家試験を共に乗り越えた仲間は今でも私にとってかけがえのない心強い存在です。今思い返せば私の学生時代は、そんな仲間とともに看護学の勉強の他にバイトやボランティアなど学生時代にしかできない貴重な時間も送ることができました。

大切な仲間と出会うことができ、様々な経験をする事ができた学生時代を、敦賀市立看護大学で送ることができてよかったと改めて感じます。この節目を迎えるにあたり敦賀市立看護大学がさらに飛躍されることを祈念いたします。

卒業して思うこと

橋 詰 結

(2016年看護学部入学)

私が、敦賀市立看護大学で一番印象に残っている思い出は、カナダへの語学留学です。授業の一環として行われているため、英語で授業を受けたり、海外の病院を見学したりと、勉強しなければならないこともたくさんありましたが、それ以上に同期生との仲が深まり様々な思い出が出来ました。買い物やカフェ巡り、野外シアター、クルージング、大人数でのお泊り会、ワイナリー見学など、日本では味わう事の出来ない経験を、大好きな友達と一緒に経験することが出来ました。このような機会が与えられた事を幸運に思っています。

また、学生時代は在宅分野ではなく救急分野を専攻していましたが、現在は、訪問看護師として、患者さんの自宅へ伺い、医療処置や身の回りのケアを行っています。学生時代にその分野を専攻し

たからといって、他の分野で働けないということはありませんし、自分の興味のあることをこれからも続けていけたらと思っています。

社会人になった今思う事は、学生時代には学生時代にしかできない経験や時間があり、それらをもっと価値のあるものとして大切に過ごしていればよかったということです。友達との時間はお互いに仕事がある為予定が合わず、年々減っていき、自分のやりたかったことも、お金はあるけれど時間がないと感じる日々です。カナダへの語学留学のように、『学生のうちにできることはやっておく』ということがとても大切なことかもしれません。学生の皆さんには、素敵な思い出をこれからたくさん作ってほしいなと思います。

大学の思い出 —授業・実習・国家試験勉強・BLSの資格取得—

福井県済生会病院

看護師 吉田 真唯

(2016年看護学部入学)

敦賀市立看護大学令和元年度卒業生、3期生の吉田真唯と申します。

私は大学を卒業し、地元である福井市の急性期病院に就職しました。新人から3年間呼吸器・循環器内科に勤務しており、今年の春から外科病棟に異動し勤務しています。現在看護師として働き4年目になりますが、まだまだ分からないことも多く、未熟ではありますが、同期や先輩方に支えて頂きながら日々仕事に取り組んでいます。大学時代には救急災害コースに所属していました。関東の原子力発電所に見学に行かせて頂いたり、集中治療室や救急外来の実習にも参加させて頂いたり、貴重な体験をさせて頂きました。この実習で学んだ事は現在の職場でもとても役立っていますし、大学を卒業し3年ほど経ちましたが、大学

の授業や国家試験勉強で学んだこと、実習で体験したことなどを今でも生かすことが出来ていると感じています。またBLSの資格を学生のうちに取得出来ることもこの大学の強みだと思いますし、実際就職してからBLSの知識や、ACLSを取得する際にもとても役立ちました。実習、看護研究など先生方にも沢山支えて頂き、有意義な大学生活を送れたと思っています。

敦賀市立看護大学が開学し10周年を迎えるということで、大学時代を振り返りながら大学での思い出や現在の状況について書かせて頂きました。皆さん日々の授業、実習、国家試験勉強など大変だと思いますが、大学の先生方もサポートして下さいますし、友人達と励ましあいながら一緒に乗り越えていって欲しいと思います。応援しています。

大学時代を振り返って

小牧市民病院

看護師 野田 智子

(2017年看護学部入学)

私は、地元に戻り循環器内科・心臓血管外科病棟の看護師として働いています。急性期の患者が多いため、重症患者への看護や急変対応など大変なことも辛いこともあります。それ以上にやりがいや学びがたくさんあります。

大学時代はボランティアサークルに所属しており、地域の行事への参加や学祭でのハンドマッサージなど様々な活動をしてきました。ボランティア活動は他学年や地域の方々など、人と人との繋がりを広げることができ、自分の成長にもつながりました。臨床の場での患者との関わりやコミュニケーション力は活動を通して身についたものだと実感しています。

また、分野選択では在宅看護学を専攻していました。実習や講義を通して地域で暮らす療養者の

生活についてより深く学ぶことができたため、入院中も退院にむけてより継続した支援ができています。これらは自分の強みであり、敦賀市立看護大学での学びや実習あってこそだと実感しています。

今後の目標として、心不全の看護についてさらに深めていきたいと思っています。心不全は憎悪と寛解を繰り返す病気であり、入退院を繰り返し急性期・慢性期・終末期まで関わります。病いとともにその人らしく生活できるようサポートしていきたいと思いました。ゆくゆくは心不全療養指導士やACP相談員として心不全患者や家族を支えていきたいです。

最後に毎日勉強や実習で忙しいと思いますが、無理せず夢に向かって頑張ってください。

看護師キャリアに影響を与えた大学での学び

市立敦賀病院

看護師 青木 哉雲

(2017年看護学部入学)

大学での学びを活かして看護師として働き続けることができ、実習で来られた恩師の方々にお会いした際には成長を認めていただき大変嬉しく思います。

大学では様々な学びを得ましたが、特に影響を受け今もキャリアの方向性として目指しているものがあります。それが在宅看護の学びです。ざっくりと看護師になりたいという思いで入学した看護大学でしたが、いざ実習に赴くと「思ってた看護師と違う」という印象がありました。しかし、在宅看護実習に行った際に、自分が思っていた看護師像に最も近いという印象を受けました。その時から訪問看護師になりたいという方向性が定まったように思います。現在はまだ病棟で働いていますが、いずれ訪問看護の道に進みたいという

志は変わらず持っています。

以上のことから、大学時代に自分の目指したい看護師像がある程度定まっていると、キャリアが描きやすいと思いました。就職してから方向性を考えるのも全然遅くないですが、早めに決めておくことで就職先や卒業研究のテーマの選定がやりやすく、寄り道が少なく目標を目指すことができると思います。

最後になりますが、敦賀市立看護大学の益々のご発展をお祈り申し上げます。

看護師として働いてみて

東京医科歯科大学病院

看護師 大前 嬉歩

(2018年看護学部入学)

私はなんとなく東京で働きたい、大きい病院で働きたいという思いで今の病院に就職を決めました。この診療科を学びたいという強い意志もなく、骨折したことがある経験から、なんとなく整形外科で勤務したいと思い、希望を出しましたが、脳神経内科と脳神経外科がメインで少数整形外科の患者さんも受け入れるような混合病棟に配属となり、やっていけるのか不安になりました。しかし、私を支えてくれたのは同期の存在でした。

自分の意思ややりたいこともなく、1人で上京してきた私は、友達もおらず、やりがいを感じられない日々が続きました。しかし、1人で上京してきた私に積極的に声をかけてくれたり、ご飯を誘ってくれたり、一緒に勉強したりしてくれる心温かい同期に恵まれました。仕事にも慣れてくると、患者さんに感謝していただいたり、看護技術を自立できたり、少しずつやりがいを感じられるようになりました。今ではこの職場を離れたいと思わず、先輩も同期も後輩も大好きです。なんとなくで選んだ病院、病棟でしたが、私は運が良く恵まれていると感じました。私にとって大切なことは、どのような病院で働くかよりも、人間関係だと気づきました。

私のこの経験より、後輩の皆様に伝えたいことは、やりたいことを無理に見つけなくても良いということです。同期と1年間共に苦難を乗り越えようと、きつとかけがえのない同期の存在の大きさに気づきます。周りの人を大切にすれば、きつと周りの人も自分を大切にしてくれるので、仕事も楽しくなると私は思います。私は就職活動の時に志望動機などを考えることが難しく、どの病院も似たようなものだと思っていました。なんとなくじゃだめなの

かなと思っていました。確かにやる気もない看護学生を病院は採用したいとは思わないと思いますが、日々自己研鑽を忘れず、礼儀を大切に、笑顔でひたむきに頑張ればどの職場でも適応できるし、楽しく働くことができると思います。実際私は志望動機はほとんどなかったですし、ただ毎日頑張って仕事をするだけで遂行すると、結果は付いてきました。最高の職場、最高の同期、最高の先輩後輩に出会えました。ゆえに、後輩の皆様には、周りの人を大切にすること、努力を忘れないことを心に留めていただきたいです。

看護師1年目の12月、夜勤中に腰痛を自覚し、病院に行くといふヘルニアと診断されました。患者さんの移乗が腰にきてしまい、座っていると尻や太ももが痺れるようになりました。学生の時に先生から自分の体を大事にしましょうと教わっていますが、まさにその通りだと実感しました。通院しながら働くことになり、職場の皆様には迷惑をかけてしまいました。そのため、患者さんのことを大切に思っ看護をすることも大切ですが、自分の体も大事にすることも忘れないでください。

最後になりますが、社会人になるとまとまった休みが取りづらくなります。そのため、学生の間はほどほどに勉強して、たくさん遊んで、たくさん思い出を作ってくださいたいと思います。実習やテスト、卒業論文、国家試験と大変なことは多々ありますが、楽しいことがあるときつと乗り越えられます。同学年の友達と支え合いながら有意義な学生生活を送ってください。微力ではありますが、応援しております。

大学を卒業して思うこと

地方独立行政法人 長野市民病院

看護師 佐藤 真弓

(2018年看護学部入学)

開学10周年おめでとうございます。私は現在ICUで働いています。働き始めて1年が経ちますが、クリティカルな状態の患者さんを前に未だに緊張の連続です。私は在宅看護学の講義と実習を踏まえ、将来は訪問看護師になりたいと考えています。ICUには様々な疾患、機器を使う患者さんがおり、幅広い知識やアセスメント能力が求められるため、今の経験が今後の基礎になると考えています。元々てきぱきと動けるタイプではなく、失敗や学ぶこと、辛く苦しいことは多いです。ですが自分のなりたい姿を忘れずに、折れずに頑張りたいと思っています。

学生生活を送る後輩のみなさんには伝えたいことが2つあります。まず実習についてです。私たちの実習はCOVID-19流行のさなかでしたが、患

者さんのことを真剣に考え、計画を立て、実施する過程を経験できました。「できた」という達成感はその後の自信に繋がると思うので、実習という唯一無二の経験を大切にしてほしいです。2つ目は学生のうちに友人とたくさん思い出を作ることです。働き始めると学生時代の友人とは時間的にも物理的にもなかなか会えません。会えるうちにたくさん話して視野を広げ、色々な所へ行き思い出を作ってください。その思い出や築いた関係が働き始めてからも自分を支えてくれると思います。

働く今、様々な方に支えられた恵まれた学生生活があり、今の私があると実感しています。卒業生の1人として感謝申し上げますとともに、貴学の更なるご発展をお祈り申し上げます。

仲間の存在

看護師 丸田 朋奈

(2019年看護学部入学)

4年間の大学生活を振り返ったとき、最初に思い浮かんだことはかけがえのない仲間の存在でした。大学生活の始まりは誰ひとり知り合いがいない環境で不安しかない状態でしたが、気づいた頃にはたくさんの仲間に恵まれ、大変な中でも日々笑って楽しく過ごすことができていました。4年間の中で1人では乗り越えることができなかったであろう、辛く苦しいことも数多く経験しました。それを乗り越えることができたのは間違いなく周りに仲間がいてくれたからだ実感しています。いつでも元気づけてくれた仲間、一緒に泣いてくれた仲間、話を聞いてくれた仲間。そんなたくさんの最高の仲間たちは一生私の宝物です。

大学を卒業してからは今までのように簡単に会える距離にはいない環境ですが、連絡を取り合い、

休みが合ったときには直接会うと、なんとも言い表すことができない安心感を得ることができます。直接会って話をすると、自分と環境は違いますが、みんな大変な中でも頑張っていると感じることができ、私に元気とやる気を与えてくれます。

私は4月に病院に就職したばかりで、まだまだこれから大変なこともあるだろうと思われませんが、そんな時にも大学で出会った仲間や新しく出会った仲間と支え合いながら頑張っていきたいと考えています。そして、先輩方のように看護師としても人としても素敵になれるよう、頑張っていきます。

大学生活で得たこと

京都府立医科大学附属病院 中央手術部

看護師 湯浅 瑠莉

(2019年看護学部入学)

私は現在、京都の病院の手術室で働いています。手術室では、病棟とは違った知識や技術が必要で、次の日の勉強や1日の振り返りなど、勉強勉強の毎日を過ごしています。覚えることも多く大変なこともあります。少しずつできることや知識が増え、仕事へのやりがいも感じられるようになりました。実際に現場に出て仕事をするようになって、大学生活があったからこそ得られたと思うことが2つあります。

1つ目は忍耐力です。学生生活では課題やテスト、実習、国家試験など勉強をしなければならないことも多く、投げ出したくなることもありましたが、しかし、4年間めげずに取り組んだことで自然と忍耐力がついたと感じています。現場に出ても、勉強の日々ですが、大学生活で忍耐力を

養うことができたからこそ、今もコツコツと勉強に取り組んでいるのだと思います。

2つ目は友達です。4年間切磋琢磨し合いながら過ごした友達は、卒業した今でも私自身にとってかけがえのない存在です。苦楽を共にする分、得られる絆は強いと思います。卒業してからも連絡を取り合っていますが、よき相談相手であり、高め合える存在であると感じています。

この2つ以外にも得られたことはたくさんあり、4年間の大学生活はとても充実していたと感じます。学生生活も現場にでてからも大変なことはたくさんありますが、ひとりで頑張るのではなくみんなと乗り越えながら、楽しい学生生活を過ごしてください。

私の原点

福井県立病院

看護師 清水 美有

(2014年看護学部入学 2018年看護学研究科入学)

敦賀市立看護大学開学10周年おめでとうございます。

私は平成26年に第一期生として入学し、当時の学長の勧めもあり同大学院へ進学、令和2年に修了しました。卒業後は地元の愛知県に戻り、名古屋市立大学病院で3年間消化器外科病棟に勤めた後に、今年の4月から福井に移住し、福井県立病院の血液腫瘍内科病棟で勤務しています。

在学中は特にボランティア活動や学生消防団の活動に力を入れて取り組み、とても充実した日々を送ることができました。学生消防団の活動では小中高生や国体ボランティアの方々にBLS指導を行ったことが評価され、総務大臣賞を受賞しました。

修士課程では、集中治療室で働く看護師の看護体験から生じる働く姿勢を明らかにする研究に取

り組みました。論文作成は非常に大変でしたが、教職員の方々や同期の支えがあり、なんとか最後まで自分の研究に向き合うことができました。大学院での経験は忍耐力と物事を理解しようとする姿勢が身につき、研究で明らかになったことは今の自分を奮い立たせてくれます。

敦賀市立看護大学は小規模の大学ですが、自分が先陣を切って挑戦しようと思うのにちょうど良い学びの資源がたくさんあります。また、それをととても近くで支えてくれる教職員の方々がいま

す。これらを活用しない手はないです。私も、貴学に思いを馳せながら、福井の看護発展に貢献できるよう精進します。

最後に、貴学の今後の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。

大学での学び

助産師 住本 麗奈

(2017年看護学部入学 2021年助産学専攻科入学)

大学では3学年目で分野別に分かれて学んだことで、専門性の高い知識を得ることが出来ました。大学卒業後は助産師志望のため本学の助産学専攻科へと進学し、女性のライフサイクルに携われる助産師となるため勉強を行いました。助産学専攻科での1年間は一瞬のように感じ、濃密なひとときを過ごすことができました。勉強を行っていくにあたって苦しかった場面も多々ありましたが、助産師を志す仲間とともに励まし、高め合いながら学びを深めていきました。また実習では、分娩という誕生の瞬間に携われるということがいかに幸せであるのかを実感しました。病院や助産所、保健所など様々な場所での学びを通して、地域に根付いた場所で地域の方々と密な関わりを継続して行っていきたいと考えるようになりました。

現在は、助産師として病院で働いています。まだ助産師としてスタートラインに立ったばかりであり、知識や技術の面では未熟な部分も多いですが、女性の一生に携わり、寄り添った関わりを行える助産師になれるよう日々励んでいます。本学の先生方は、学生に寄り添い、熱心にご指導して下さるため、学ぶ場としてとても良い環境です。是非、看護師や助産師を目指す方々は本学に入学してください。応援しています。

看護観が深まった大学での学び

看護学部在学 齋藤 そら
(2020年入学)

高校生の頃に病棟と在宅に関する看護体験に参加したことをきっかけに、常に患者さんの気持ちを一番に考え、患者様やご家族が望む生活を支援できる看護師を目指すようになった。大学の応用看護では在宅看護学を選択し、患者さんやご家族の望む生活のあり方やどのような課題や地域全体での支援があるのかについて講義や実習を通して在宅看護の側面から学びを深めてきた。在宅看護学実習では、実際に自宅や施設などの様々な場所で生活されている療養者さんやご家族の生活に触れることができた。そして、年齢や介護度が同じであっても、生活や生き方、考え方などは一人一人様々であり、支援体制も多様であることから、その人らしい生活とは何かを常に考え、ありのままのその人をみるのが大切だと学んだ。また、

病棟での患者さんの生活や看護が、患者さんやご家族の在宅での生活の質にも繋がるということを実習指導者さんから教えていただき、患者さんが今できることや退院後にできるようにしたいことを明確にし、他職種と連携しながら入院時から整えていく関わりが大切だと改めて考えることに繋がった。これらの大学での学びから、将来病院で看護師として働く際には、患者さんの退院後の生活を見据えた看護をしていきたいと考える。そして、患者さんやご家族が安心してその人らしい生活ができるように支えられる看護師として活躍していきたい。

地域に貢献できる看護師を目指して

看護学部在学 松成 沙弥香
(2020年入学)

私は地元で活躍できる看護師になりたい夢があります。小さい頃から近所の方によく可愛がってもらった経験があり、福井は人との繋がりが強いところだと感じています。福井でたくさんの方に支えてもらい、その恩返しをしていきたい思いから、県内の大学への進学を希望しました。敦賀市立看護大学では、地域のニーズに応えた応用3分野から学びたい分野を選択することができ、自分の目指す分野の資格や知識を身に付けることができることに魅力を感じ入学することを決めました。私はその中で、幅広く地域に住む方の健康や生活を支援することができる地域看護学の分野を選択しました。3年生から各領域の実習が始まり、実際に患者さんと関わっていくと、コミュニケーションをとることが難しかったり、自分の知識や

技術の未熟さを実感したりと気づきの多い毎日でした。初めての経験ばかりで悩みが絶えませんが、先生方のアドバイスや友人たちとの話し合いを通して、看護について深めていくことができました。今は実習や就職活動、卒業研究に取り組み、忙しい毎日ですが、友人と支えあいながら、充実した日々を過ごすことができています。敦賀市立看護大学ではさまざまなキャリアに触れることはもちろん、それを後押ししてくれる先生方もたくさんいらっしゃいます。理想の看護師に近づけるよう一緒に頑張っていきたいと思います。

生活の視点に立った看護を目指して

看護学部在学学生 青山 綾花

(2021年入学)

在学生として本学の開学10周年を迎えられることを大変嬉しく思います。

私が本学に入学した理由は、将来は地元である敦賀に貢献できる仕事に就きたいと考えていたからです。入学してからは学びの多い日々を過ごしています。特に本学のアドミッション・ポリシーの一つである「人に関心を寄せること」について感銘を受けました。入学前は、看護師といえば処置や手技というイメージを強く持っていました。しかし授業や実習を通して、目の前にいる患者さんとその人の生活全体に関心を寄せることから看護が始まると学びました。

現在は看護の専門的な科目を幅広く学修しています。各領域の先生方は豊富な知識や経験に基づいて授業をしてくださるので、非常に興味深く、

学ぶ意欲が高まる授業ばかりです。後期からは本格的に実習が始まります。患者さんと関わることのできる貴重な機会に感謝し、多くのことを吸収できる実習となるよう、日々学ぶ姿勢を大切にしていきたいです。

日常生活において、人はいくつもの側面を持って生きていると思います。将来は、患者さんを「患者さん」としての側面だけでなく、「一人の生活者」として生活全体を看ることができるとなるといいです。生活を整えることは生きる力につながると思います。そして患者さんと向き合う中で自分自身とも向き合い、一人の人間として成長したいと考えています。

敦賀市立看護大学に進学して

看護学部在学学生 佐藤 高輔

(2021年入学)

私は本学が地域医療に力を入れていたことから、将来地域医療に関わっていきたくて考え、本学に進学しました。私は地元が敦賀ではなかったので、入学当初どこに行くにも右も左も分からず彷徨っていたのを覚えています。そんな私は今年、本学の三年生となり、応用分野は地域看護学を選択しました。講義の数も二年生と比べて多くなりましたが、その分毎週の講義では、より専門的な内容を学習することができています。ただし、学習内容が専門的なものとなったため内容が難しく、さらに今まで学んできた看護の基礎となる知識や技術を用いる機会が多くなり、復習に追われているというのが現状であり、毎日がとても苦しく感じていました。そんな中友達と支え合っていくこと、担当の先生方が寄り添ってくれることで、い

ろいろと抱え込まずには私は充実した日々を過ごせています。将来の展望としては保健師になることを考えています。中でも市役所や県庁で働く行政保健師になりたいと考えています。そのため、これから始まる後期の実習に採用試験、公務員試験など、乗り越えなければならない壁を踏破するべく、日々勉学に励んでいます。

最後に、新入生の方へ、この大学には厳しい時はとても厳しいですが、優しくとても頼れる先生方が多く、もちろん頼れる友達や先輩方もたくさんいます。是非良い関係を築いて、楽しい学生生活と私生活を送ってほしいです。

学び続ける

看護学部在学学生 河田 琉 凧
(2022年入学)

この度、敦賀市立看護大学が開学10周年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。また、在学生として記念誌の発行に携われることに感謝申し上げます。

私は高校2年生の冬に看護の道に進むことを決めました。数学Bや生物をとっておらず、理系である看護学部を受験するには厳しいといわれ科目が限られていた中で本学を受験し、1年間学んできました。不安は多くありましたが、単科大学ならではの小規模での細やかで丁寧な指導や主体性を意識した内容により、難しいと感じることも多々ありながらも、充実した学びを得られています。

現在は、看護師・保健師の国家資格を取得し地域に貢献できる看護職者になるために勉強に取り組んでいます。看護職者になることを決めた時か

ら、私は保健師を目指していました。元々関心があった予防医学を学びたいことに加えて、地域特性やその現状を知る機会が得られる授業が多いことから、地域全体の健康を守りたいという気持ちが芽生え、保健師を目指す意欲が高まっています。これまで、勉強はコツコツする・後悔しないように手は絶対に抜かないという気持ちで取り組んできました。今後も継続し、努力を惜しまず、学び続ける姿勢を大切に日々頑張っていきたいです。この気持ちと共に、これから看護学生を目指す方のご健闘・ご活躍と敦賀市立看護大学のさらなる発展を祈念いたします。

寄り添うということ

看護学部在学学生 柴田 希 美
(2022年入学)

私が助産師になりたいという夢を持ったのは肺炎で入院をした小学2年生の冬でした。きっかけは、目の前にある産婦人科で、赤ちゃんに笑顔で話しかける助産師さんの姿を目にしたことです。あの光景は今でも覚えています。それから助産師という職に興味を持ち、「妊産婦に寄り添うことができる助産師になりたい」と強く思うようになりました。とは言え「寄り添う」とはどういうことなのか今だに答えは出ておりません。「心が落ち着くまで側にいること」なのか、「他愛もない話をして笑い合うこと」なのか、分かりません。きっと、どちらも正解であり、この問いに答えは無いと感じています。私にはまだ資格はありませんし、知識も技術も充分ではありません。しかし、赤ちゃんを抱いているお母さんの荷物を持ったり、

辛くて悩んでいる友人の話を聞いたり、目の前にいる人に手を差し伸べることはできます。このような考えを持てたのは仲間のおかげです。こんなにも素敵な仲間に出逢い、沢山の刺激を受けて、共に看護を学べることを心から嬉しく思います。

日々講義をしてくださる先生方、同じ将来を描く仲間、後輩、先輩方、実習先の医療従事者の皆様、地域の皆様、学内、学外の清掃をしてくださる清掃員の皆様、1番近くで支えてくださる家族、全ての方々への感謝の気持ちを忘れずに、「妊産婦に寄り添うことができる助産師」になります。2年半後、56人全員がそれぞれの道で輝いていることを願っています。

後輩へのメッセージ

大学院看護学研究科在学生 笹山 真由美
(2020年入学)

このたびは、本学の開学10周年に際し、謹んでお喜び申し上げます。

私は、大学院看護学研究科地域・在宅看護学分野に入学し、現在4年目を迎えます。仕事をしながらの学業なので、4年の長期履修制度を入学時より選択しました。大学院に入学をした動機は、『学びたい』という思いからでした。臨床の現場で、看護師として勤務し、知識や技術を学ぶ機会を沢山頂いてきました。しかし、実践側から伝える立場になった頃より、自分が苦手とする不足点について何とか克服したいと考えるようになりました。そのことが大学院で『学びたい』に繋がりました。また、『豊かな経験をしつつ年を重ねる』ことが、人生の目標でしたので、学生に戻ること、吸収する力を柔軟に鍛えたいと思いました。

学生生活から学んだことの一つに、『支えられることで、学ぶ意欲は向上する』ことを実感しました。熱心に指導してくださる先生方はもちろん、研究依頼で、看護部長さんを訪問した時、私の研究の話、熱心に聞いて下さる姿勢に、『感謝』と共に、『頑張ろう』と力が湧いてきました。人と丁寧に接する姿勢は、今後、私が、職場で支える側として実践していこうと思っています。

『未来とは今である』。これは、文化人類学者マーガレット・ミードの言葉です(ある本で知りました)。この言葉を受けて、実現したいことがあるならば、『いつか』でなく、今、動き始めましょう、と後輩の皆さんにメッセージを送りたいです。

どのような状況下でも活躍できるために

助産学専攻科在学生 長谷川 千夏
(2019年看護学部入学 2023年助産学専攻科入学)

私は東日本大震災の際にニュースで妊婦が取り上げられていて、自分の命だけでなくもうひとつの命を守ろうと必死に生きる姿をみて、女性の強さに感銘を受け、どのような状況下でも女性が安心して分娩ができるような環境を整えたいと思い助産師を目指した。そのため、救急・災害分野と助産学専攻科のある本学に進学し、現在は助産学専攻科で助産師としての基礎的な知識・技術、自立して妊産婦を支えることのできる実践能力、ライフサイクル各期におけるリプロダクティブヘルスに関する支援が行える能力、母子保健の発展に貢献できる能力を養うために座学や演習、学外活動を通して学びを深めている。助産学専攻科では、母性・小児の分野だけでなく学部で学んだ多領域の知識や経験が土台となり、より専門的な知

識や技術がプラスされていくため、土台が重要であるが自身の学習における視点が不足していたことを痛感する日々である。将来は、救急・災害などの場で活躍し、自分の経験をだれかに伝えたり、活躍をみて自分もこんな活動をしたいと思ってもらえたりすることで、より私の目指すどのような状況下でも女性が安心して生活できる環境を整えることができると思う。

後輩へのメッセージ：やったらやった分だけ自分のためになるので、無駄だと思わずに看護に関する知識だけでなく、さまざまな分野における知識を持っていると良いと思います。大学には同じ夢をもつ仲間がたくさんいるので、先輩・後輩関係なく吸収できるものは吸収して視野を広げ、みんな力で力をあわせて自分の夢を叶えてください。

これまでのあゆみ



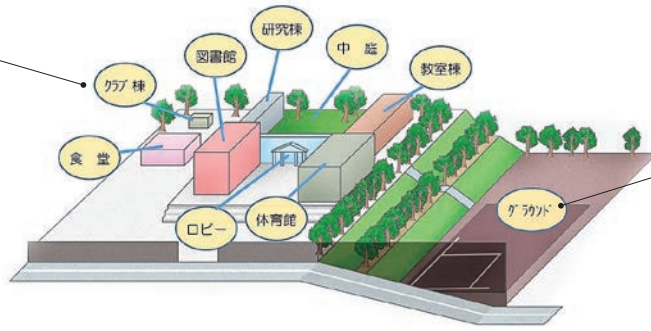
キャンパス紹介

高台に建つ校舎の中庭からは敦賀市を一望でき、海へと続く景色が広がっています。
季節の植物にも恵まれ四季折々の風景がみられます。





クラブ棟



グラウンド



看護実習室1



看護実習室2



看護実習室3



看護実習室4



大教室



附属図書館



情報処理演習室



学生食堂



1階ロビー



2階ロビー



体育館



中庭



2014年4月4日入学式

新入生57名を迎え、記念すべき開学初年度の入学式を挙行了しました。



2014年6月28日 開学記念式典

本学の開学にご尽力をいただいたご来賓をはじめ、多くの関係者の方々にご臨席を賜りました。



中庭の芝の苗植え

開学の2014年から学生および教職員総出で芝の植え付けを行いました。

現在では季節を感じる美しい中庭へと成長し、大学案内の表紙の撮影にも活用しました。



2014年8月一次救命処置（BLS）講習会



2022年7月 卒業生交流会

アメリカ心臓協会の国際ライセンス「AHA BLS Healthcare Provider Course（AHA BLSヘルスケアプロバイダーコース）」講習会を毎年実施し、ライセンス取得者を輩出しています。卒業後の更新講習の実施もあり、卒業生のフォローアップ、交流の場としても活用されています。



2016年9月 オカナガン大学



2021年7月 イングリッシュ・カフェ

例年、夏季休業を利用し、カナダのオカナガン大学において海外語学研修を実施し、英語の授業や福祉・医療施設等の見学をしました。新型コロナウイルス感染症感染拡大により実施のできない年は、敦賀気比高校ALTの協力を得て「イングリッシュ・カフェ」と称し、学内において地元敦賀に暮らす外国人と英語で直接話せる機会を作りました。行動制限が解消された現在においては新たなスタイルで海外への語学研修を実施していきます。



2016年6月 ふくい学生祭において優勝

「ふくい」の学生の一員として大学を超えた交流を通じ、学生と企業・地域・行政などが出会うことを願い「ふくい学生祭」が実施され、「企業紹介コンテスト」において優勝しました。



2017年11月 海凜祭

学生により「海凜祭」と名付けられた大学祭は、学生だけでなく地域の方にも楽しんでもらえるよう企画されています。例年多くの方にご来場いただいています。



2018年10月 福井しあわせ元気大会2018

第18回全国障害者スポーツ大会「福井しあわせ元気大会2018」が福井県で開催されました。敦賀市で実施された水泳競技の選手団サポートボランティアに参加し、移動介助、スコア管理、弁当・ドリンク運搬などの活動を行いました。



2021年9月 交通見守りボランティア



2023年6月 クリーンアップふくい
松原海岸清掃ボランティア

ボランティアサークルは開学からこれまで多くの学生が所属し地域の活動に参加しています。サークルのメンバーに限らず、清掃活動をはじめ地域で行われる各種イベントのサポートなど幅広く活動しています。



2018年 学生消防団総務大臣表彰



2022年 消防団等地域活動表彰
(消防庁長官表彰)

救急・災害看護学を選択している学生が、学生消防団として活動しています。小・中・高校生を対象とした救命講習、市民への啓発活動、その他、嶺南地域を中心とした各種イベントに参加しています。このような活動が認められ、2018年に「総務大臣表彰」、2022年には「消防団等地域活動表彰（消防庁長官表彰）」を受賞しました。



2020年 わが町の防災コンテスト福井新聞社長賞受賞

2019年7月～9月

美浜町住民が看護大学生とともに造る
健康で安全な暮らしと災害対策

福井県の「地域人材育成支援事業補助金」を活用したプロジェクトの一環として、美浜町と協力し、町民の健康づくりや災害対策に学生が主体となって取り組みました。

この活動が評価され、国土交通省「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づいて開催された「2020わか町の防災コンテスト（ふくいの水防災を考える会主催）」において、福井新聞社長賞を受賞しました。



2014年8月 開学初のオープンキャンパス



2021年8月 オンライン進学相談会

学生の協力のもと年2回実施されるオープンキャンパスには県内外から大勢の来場者があり好評をいただいております。

加えてWEBオープンキャンパスサイトの開設、オンライン進学相談会の実施により、本学の情報を提供しています。



2021年～

新型コロナウイルス感染症ワクチン集団接種への協力

全国の大学に先駆けて、本学は敦賀市における新型コロナウイルス感染症ワクチン集団接種の支援を行いました。この他にも、本学の教員がワクチン接種に従事する医療関係者を対象とした研修会の講師を務めるなど、様々な場面で協力いたしました。

入学志願者数、受験者数、合格者数、入学者数

看護学部看護学科

2014年度						(人)	(倍)		
試験区分	募集人員(A)	志願者数(B)	受験者数(C)	合格者数(D)	入学者数(E)	志願倍率(B/A)	受験倍率(C/A)	定員充足率(E/A)	
推薦	15	22	22	15	15	1.5	1.5	1.00	
社会人	若干名	16	16	2	2				
一般前期	35	1005	728	54	40	28.7	20.8	1.14	
合計	50	1043	766	71	57	20.9	15.3	1.14	

2015年度						(人)	(倍)		
試験区分	募集人員(A)	志願者数(B)	受験者数(C)	合格者数(D)	入学者数(E)	志願倍率(B/A)	受験倍率(C/A)	定員充足率(E/A)	
推薦	15	21	21	15	15	1.4	1.4	1.00	
社会人	若干名	4	4	2	2				
一般前期	25	52	46	28	27	2.1	1.8	1.08	
一般後期	10	53	23	14	12	5.3	2.3	1.20	
合計	50	130	94	59	56	2.6	1.9	1.12	

2016年度						(人)	(倍)		
試験区分	募集人員(A)	志願者数(B)	受験者数(C)	合格者数(D)	入学者数(E)	志願倍率(B/A)	受験倍率(C/A)	定員充足率(E/A)	
推薦	15	17	17	15	15	1.1	1.1	1.00	
社会人	若干名	3	3	1	1				
一般前期	25	332	289	29	23	13.3	11.6	0.92	
一般後期	10	439	188	20	17	43.9	18.8	1.70	
合計	50	791	497	65	56	15.8	9.9	1.12	

2017年度						(人)	(倍)		
試験区分	募集人員(A)	志願者数(B)	受験者数(C)	合格者数(D)	入学者数(E)	志願倍率(B/A)	受験倍率(C/A)	定員充足率(E/A)	
推薦	15	19	19	15	15	1.3	1.3	1.00	
社会人	若干名	5	5	0	0				
一般前期	25	126	113	30	26	5.0	4.5	1.04	
一般後期	10	164	66	19	15	16.4	6.6	1.50	
合計	50	314	203	64	56	6.3	4.1	1.12	

2018年度						(人)	(倍)		
試験区分	募集人員(A)	志願者数(B)	受験者数(C)	合格者数(D)	入学者数(E)	志願倍率(B/A)	受験倍率(C/A)	定員充足率(E/A)	
推薦	15	18	18	15	15	1.2	1.2	1.00	
社会人	若干名	2	2	0	0				
一般前期	25	229	210	30	28	9.2	8.4	1.12	
一般後期	10	263	106	15	13	26.3	10.6	1.30	
合計	50	512	336	60	56	10.2	6.7	1.12	

2019年度						(人)	(倍)		
試験区分	募集人員(A)	志願者数(B)	受験者数(C)	合格者数(D)	入学者数(E)	志願倍率(B/A)	受験倍率(C/A)	定員充足率(E/A)	
推薦	15	16	16	15	15	1.1	1.1	1.00	
社会人	若干名	0	0	0	0				
一般前期	25	71	66	30	27	2.8	2.6	1.08	
一般後期	10	131	46	15	14	13.1	4.6	1.40	
合計	50	218	128	60	56	4.4	2.6	1.12	

2020年度						(人)	(倍)		
試験区分	募集人員(A)	志願者数(B)	受験者数(C)	合格者数(D)	入学者数(E)	志願倍率(B/A)	受験倍率(C/A)	定員充足率(E/A)	
推薦	15	30	30	15	15	2.0	2.0	1.00	
社会人	若干名	1	1	0	0				
一般前期	25	72	69	33	26	2.9	2.8	1.04	
一般後期	10	107	32	19	15	10.7	3.2	1.50	
合計	50	210	132	67	56	4.2	2.6	1.12	

2021年度						(人)	(倍)		
試験区分	募集人員(A)	志願者数(B)	受験者数(C)	合格者数(D)	入学者数(E)	志願倍率(B/A)	受験倍率(C/A)	定員充足率(E/A)	
推薦	15	43	43	15	15	2.9	2.9	1.00	
社会人	若干名	1	1	0	0				
一般前期	25	101	95	30	23	4.0	3.8	0.92	
一般後期	10	220	81	20	18	22.0	8.1	1.80	
合計	50	365	220	65	56	7.3	4.4	1.12	

2022年度						(人)	(倍)		
試験区分	募集人員(A)	志願者数(B)	受験者数(C)	合格者数(D)	入学者数(E)	志願倍率(B/A)	受験倍率(C/A)	定員充足率(E/A)	
推薦	15	25	25	16	16	1.7	1.7	1.07	
社会人	若干名	1	1	1	0				
一般前期	25	114	104	31	25	4.6	4.2	1.00	
一般後期	10	190	69	19	15	19.0	6.9	1.50	
合計	50	330	199	67	56	6.6	4.0	1.12	

大学院看護学研究科

2018年度 (人) (倍)

試験区分	募集人員(A)	志願者数(B)	受験者数(C)	合格者数(D)	入学者数(E)	志願倍率(B/A)	受験倍率(C/A)	定員充足率(E/A)
推薦	若干名	1	1	1	1			
社会人	若干名	9	9	7	7			
一般	8	0	0	0	0	0.0	0.0	0.00
合計	8	10	10	8	8	1.3	1.3	1.00

2019年度 (人) (倍)

試験区分	募集人員(A)	志願者数(B)	受験者数(C)	合格者数(D)	入学者数(E)	志願倍率(B/A)	受験倍率(C/A)	定員充足率(E/A)
推薦	若干名	1	1	1	1			
社会人	若干名	6	6	6	6			
一般	8	1	1	1	1	0.1	0.1	0.13
合計	8	8	8	8	8	1.0	1.0	1.00

2020年度 (人) (倍)

試験区分	募集人員(A)	志願者数(B)	受験者数(C)	合格者数(D)	入学者数(E)	志願倍率(B/A)	受験倍率(C/A)	定員充足率(E/A)
推薦	若干名	0	0	0	0			
社会人	若干名	4	4	3	3			
一般	8	0	0	0	0	0.0	0.0	0.00
合計	8	4	4	3	3	0.5	0.5	0.38

2021年度 (人) (倍)

試験区分	募集人員(A)	志願者数(B)	受験者数(C)	合格者数(D)	入学者数(E)	志願倍率(B/A)	受験倍率(C/A)	定員充足率(E/A)
推薦	若干名	1	1	1	1			
社会人	若干名	1	1	1	1			
一般	8	0	0	0	0	0.0	0.0	0.00
合計	8	2	2	2	2	0.3	0.3	0.25

2022年度 (人) (倍)

試験区分	募集人員(A)	志願者数(B)	受験者数(C)	合格者数(D)	入学者数(E)	志願倍率(B/A)	受験倍率(C/A)	定員充足率(E/A)
推薦	若干名	0	0	0	0			
社会人	若干名	2	2	2	2			
一般	8	0	0	0	0	0.0	0.0	0.00
合計	8	2	2	2	2	0.3	0.3	0.25

助産学専攻科

2018年度 (人) (倍)

試験区分	募集人員(A)	志願者数(B)	受験者数(C)	合格者数(D)	入学者数(E)	志願倍率(B/A)	受験倍率(C/A)	定員充足率(E/A)
推薦	若干名	4	4	4	4			
社会人	若干名	0	0	0	0			
一般	8	1	1	1	1	0.1	0.1	0.13
合計	8	5	5	5	5	0.6	0.6	0.63

2019年度 (人) (倍)

試験区分	募集人員(A)	志願者数(B)	受験者数(C)	合格者数(D)	入学者数(E)	志願倍率(B/A)	受験倍率(C/A)	定員充足率(E/A)
推薦	若干名	6	6	4	4			
社会人	若干名	1	1	1	1			
一般	8	9	7	4	4	1.1	0.9	0.50
合計	8	16	14	9	9	2.0	1.8	1.13

2020年度 (人) (倍)

試験区分	募集人員(A)	志願者数(B)	受験者数(C)	合格者数(D)	入学者数(E)	志願倍率(B/A)	受験倍率(C/A)	定員充足率(E/A)
推薦	若干名	4	3	3	3			
社会人	若干名	2	2	1	1			
一般	8	2	2	2	2	0.3	0.3	0.25
合計	8	8	7	6	6	1.0	0.9	0.75

2021年度 (人) (倍)

試験区分	募集人員(A)	志願者数(B)	受験者数(C)	合格者数(D)	入学者数(E)	志願倍率(B/A)	受験倍率(C/A)	定員充足率(E/A)
推薦	若干名	4	4	3	3			
社会人	若干名	1	1	1	1			
一般	8	10	10	5	2	1.3	1.3	0.25
合計	8	15	15	9	6	1.9	1.9	0.75

2022年度 (人) (倍)

試験区分	募集人員(A)	志願者数(B)	受験者数(C)	合格者数(D)	入学者数(E)	志願倍率(B/A)	受験倍率(C/A)	定員充足率(E/A)
推薦	若干名	3	3	3	3			
社会人	若干名	1	1	1	1			
一般	8	14	10	7	4	1.8	1.3	0.50
合計	8	18	14	11	8	2.3	1.8	1.00

入学者数および地域別内訳

看護学部看護学科

都道府県	入学年度/ 入学者数 (人)	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	合計
		北海道	1								
青森県								1	1		2
岩手県						1					1
宮城県	1										1
秋田県						1					1
山形県				1						1	2
福島県								1			1
茨城県	2		1			1					4
群馬県				1	1			1	2		5
千葉県						1					1
東京都		1									1
長野県		2				2	2	4	1	3	16
新潟県				1	1						2
富山県	1	1	5	4	5	1	1	1			19
石川県	3		2	1				2	2	1	11
福井県	22	28	21	26	21	20	22	22	22	22	204
岐阜県	4	5	6	6	5	7	4	4	5		46
静岡県	1		1	2	1	2	3			1	11
愛知県	6	4	2	3	5	2	4	8	3		37
三重県	1			1	1	1	1	1	1	1	7
滋賀県	1	9	2	5	5	9	5	8	9		53
京都府	3	3	2	1	3	5	2	1	5		25
大阪府	2		1		2	2	1	2	1	1	11
兵庫県	6	2	7	2	1	2	1	2	4		27
奈良県	1	1									2
和歌山県			2	1				3			6
広島県							1		1		2
島根県	1						1				2
愛媛県	1					1	1				3
沖縄県			1								1

地域内訳は出身校所在地に基づく

大学院看護学研究科

都道府県	入学年度/ 入学者数 (人)	2018	2019	2020	2021	2022	合計
		福井県	6	5	3	2	
岐阜県	1					1	1
滋賀県	1	3				1	5

地域内訳は志願票住所に基づく

助産学専攻科

都道府県	入学年度/ 入学者数 (人)	2018	2019	2020	2021	2022	合計
		北海道			1		
東京都						1	1
富山県	1						1
石川県						1	1
福井県	4	7	5	5	5		26
愛知県		1					1
滋賀県		1			1	1	3

地域内訳は志願票住所に基づく

卒業(修了)者数および進路状況

看護学部看護学科

卒業年度	卒業者数(人)	就職者数(人)			進学者数(人)			その他(人) 就職・進学に該当なし
		看護師	保健師	その他	大学院	専攻科	その他	
2017	53	45	3	0	1	4	0	0
2018	57	43	4	0	2	6	1	1
2019	51	43	3	0	1	3	0	1
2020	54	43	3	0	1	3	1	3
2021	48	42	1	0	0	3	1	1
2022	51	39	3	1	2	4	1	1
合計	314	255	17	1	7	23	4	7

就職者数、進学者数、その他は卒業時に大学に申告のあった内容に基づき計上
大学院、専攻科への進学者数は本学大学院看護学研究科および助産学専攻科への進学者数を含む

大学院看護学研究科

修了年度	卒業者数 (人)	就職者数(人)		
		看護師	看護専門学校等教員	その他
2019	2	2	0	0
2020	0	0	0	0
2021	1	0	1	0
2022	3	2	1	0
合計	6	4	2	0

就職者数は現職(就業を継続しながら就学した者)を含む

助産学専攻科

修了年度	修了者数 (人)	就職者数(人)		
		助産師	看護師	その他
2018	5	4	0	1
2019	9	9	0	0
2020	6	6	0	0
2021	5	5	0	0
2022	7	6	1	0
合計	32	30	1	1

就職者数は修了時に大学に申告のあった内容に基づき計上

国家試験の合格状況

看護師(看護学部)

年 度	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率
2017	53	51	96.2%
2018	57	55	96.5%
2019	50	50	100.0%
2020	54	53	98.1%
2021	48	48	100.0%
2022	49	48	98.0%

保健師(看護学部)

年 度	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率
2017	15	14	93.3%
2018	15	13	86.7%
2019	15	15	100.0%
2020	14	14	100.0%
2021	14	14	100.0%
2022	15	14	93.3%

助産師(助産学専攻科)

年 度	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率
2018	5	4	80.0%
2019	9	9	100.0%
2020	6	6	100.0%
2021	5	5	100.0%
2022	7	6	85.7%

進学先一覧

所在地	施設名称	進学者数(人)
山形県	山形大学養護教諭特別科	1
新潟県	新潟大学養護教諭特別科	1
石川県	金沢大学養護教諭特別科	2
	金沢大学医薬保健総合研究科保健学専攻博士前期課程看護科学領域健康発達講座助産学	1
福井県	敦賀市立看護大学大学院看護学研究科	5
	敦賀市立看護大学助産学専攻科	23
大阪府	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻助産師教育コース	1

卒業時に大学に申告のあった内容に基づき計上

就職先一覧

単位:人

所在地	施設名称	看護師	保健師	助産師	
北海道	町立中標津病院			1	
宮城県	宮城県		1		
福島県	福島県		1		
茨城県	株式会社日立製作所 日立総合病院	1			
埼玉県	自治医科大学付属さいたま医療センター	2			
千葉県	医療法人社団誠馨会 千葉中央メディカルセンター	1			
	医療法人財団明理会 新松戸中央総合病院	1			
	医療法人徳洲会 鎌ヶ谷総合病院	1			
	順天堂大学医学部附属浦安病院			1	
東京都	東京医科大学病院	1			
	日本医科大学附属病院	1			
	国家公務員共済組合 虎の門病院	3			
	板橋中央総合病院			1	
	地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター	1			
	国際医療福祉大学三田病院	1			
	国立研究開発法人 国立がん研究センター	2			
	国立研究開発法人 国立国際医療センター病院	2			
	東京医科歯科大学医学部附属病院	1			
	東京都立多摩総合医療センター	1			
	日本私立学校振興・共済事業団 東京臨海病院	1			
	国立医療生育研究センター			1	
	日本赤十字社医療センター			1	
神奈川県	茅ヶ崎市立病院	1			
	横浜市立大学附属病院市民総合医療センター	2			
新潟県	新潟県医療生活協同組合 木戸病院	1			
	白根保健生活協同組合 新潟白根総合病院	1			
富山県	あさひ総合病院	1			
	医療法人社団整志会 沢田記念 高岡整志会病院	1			
	国立病院機構 北陸病院	1			
	市立砺波総合病院	2			
	富山県立中央病院	2			
	富山大学附属病院	1		1	
石川県	金沢大学附属病院	2			
	金沢医科大学病院			1	
福井県	福井県立病院	7	1		
	福井赤十字病院	13	1		
	福井大学医学部附属病院	2	2		
	福井県済生会病院	7			
	医療法人厚生会 福井厚生病院	1			
	医療法人穂仁会 大滝病院	1			
福井県	公立丹南病院		2		
	JCHO 福井勝山総合病院		1		
	市立敦賀病院		40	2	
	独立行政法人国立病院機構 敦賀医療センター		10		
	医療法人敦賀温泉病院		1		
	福井県医療生活協同組合 つるが生協診療所		1		
	杉田玄白記念 公立小浜病院		1		
	嶺南こころの病院		1		
	福井県			5	
	敦賀市社会福祉協議会			1	
	長野県	JA長野厚生連 北信総合病院		1	
		特定医療法人丸山会 丸子中央病院		1	
		地方独立行政法人 長野市民病院		1	
		安曇野市			1
岐阜県	岐阜県総合医療センター		3	1	
	岐阜県立多治見病院		2		
	岐阜大学医学部附属病院		1		
	岐阜市民病院			1	
	大垣市民病院		1		
	高山赤十字病院		1		
	社会医療法人厚生会 中部国際医療センター		1		
中津川市民病院		1			
社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院		1			
岐阜市			1		
中津川市			1		
静岡県	社会福祉法人聖隷福祉事業団 聖隷浜松病院		1		
	社会福祉法人聖隷福祉事業団 聖隷三方原病院		1		
	藤枝市立総合病院		1		
愛知県	あいち小児保健医療総合センター		1		
	愛知医科大学病院		1	1	
	愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院		1		
	医療法人徳洲会 名古屋徳洲会総合病院		2		
	医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院		2		
	一宮市立市民病院		1	1	
	一般社団法人日本海員救済会 名古屋救済会病院		1		
	稲沢市民病院		3		
	岡崎市民病院		2		
	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター		1		
国立病院機構 東名古屋病院		1			
国立病院機構 名古屋医療センター		3			

敦賀市立看護大学 開学10周年記念誌

2023年10月29日発行

発行者 公立大学法人 敦賀市立看護大学

理事長 内布 敦子

〒914-0814 福井県敦賀市木崎78号2番地の1 TEL.0770-20-5500

編集 開学10周年記念誌編纂班

印刷・製本 若越印刷株式会社

〒914-0043 福井県敦賀市衣掛町413番地 TEL.0770-22-5600